

## 経営学部 経営学科

カリキュラムマップ ▶

カリキュラム表 ▶

科目概要 ▶

▼ 1. 経営学科教育理念 ▼ 2. 教育課程 ▼ 3. 取得できる免許・資格

### 1. 経営学科教育理念

#### (1) 教育研究上の目的

経済的成長と社会的問題の解決を両立できる新たな価値を創造するため、経営学の専門的知識および、論理的思考能力やコミュニケーション能力、データ分析力などの実践力を身につけ、AI時代において、企業にとどまらず、あらゆる組織において活躍できる人材を養成する。

#### (2) ディプロマポリシー（学位授与方針）

教学理念である「自立」「共生」「臨床の知」に則り、「経済的成長と社会的問題の解決を両立できる新たな価値を創造するため、経営学の専門的知識および、論理的思考能力やコミュニケーション能力、データ分析力などの実践力を身につけ、AI時代において、企業にとどまらず、あらゆる組織において活躍できる人材の養成」を目的とする。具体的には、データサイエンス等の知識を活用した現状認識のもとに、民間企業等の組織のなかでリーダーシップを発揮しつつ、さまざまな経営資源を有機的に結びつけ新しい価値を生み出すことのできるビジネスマンや公務員などの人材を養成する。

そのために、次のような知識、能力、態度を身につけさせる。

- ① 人生を豊かに過ごし、組織において活躍するための文理を越えた幅広い知識
- ② 専門性の高い各領域を学ぶうえで不可欠となる経営学の基礎的な知識
- ③ 経営学の特定の領域における専門的な知識
- ④ 多様な情報ソースから情報を選択的に収集しつつ、自らの意見を論理的に展開し、分かりやすく説明することができる能力
- ⑤ AI時代において必須となるさまざまなデジタルツールを活用する能力
- ⑥ 周囲の人々と協力しつつ目的を達成するための、コミュニケーション能力やリーダーシップ、マネジメント力
- ⑦ 専門的知識に裏付けられた課題発見的・論理的思考によって、社会、組織および個人について分析・考察し、それをイノベーションへと展開する能力
- ⑧ 経済や社会について関心を持ち、日常的に新しい知識や技能を身につけようとする意欲と態度
- ⑨ 自らを取り巻く組織やコミュニティと常に協働して、課題解決に取り組む意欲と態度

#### (3) カリキュラムポリシー（教育課程の編成・実施方針）

学位授与に必要とされる能力（ディプロマポリシー）を修得するために、経営学部 経営学科では、以下の方針で教育課程を編成する。

- ① 学科の学修を円滑に進め、また自立した社会人としての基礎的な素養を養成するため、教養教育科目にコア科目群、教養教育科目群を配置する。思考力などの汎用的技能や主体的に学びを続ける態度を涵養する科目並びに、幅広い教養を教授する科目を配置する。
- ② 学びと社会のつながりや自らの将来を深く考えさせ、キャリア実現に向けた積極的な行動を促すため、教養教育科目にキャリア教育科目群を配置する。1年次前期からキャリア関連科目を開講するとともに、インターンシップなどの実践型の科目を配置し、実践・経験と連動した、体系的なキャリア教育を展開する。
- ③ 自立した社会人として仕事に従事するうえで不可欠となる、論理的・批判的思考力や実践力、コミュニケーション能力、リーダーシップの養成および専門的知識・技能の深化のため、専門教育科目に演習科目群を配置する。1年次から4年次までの学びの段階に応じた必修の演習科目で実践的な学びを展開する。
- ④ 経営学を学ぶ学生が、共通して身につけるべき知識や技能を養成するため、専門教育科目にスキル科目群および基礎科目群を配置する。

⑤ 経営学を体系的に学び、専門的な知識や技能を深めるため、専門教育科目に領域科目群を配置し、「会計・ガバナンス」「マーケティング・イノベーション」「戦略・組織」の3つの領域を配置する。

⑥ 学部を超えた文理融合の学びを促すため、専門教育科目にクロスオーバー科目群を配置し、他領域の科目を厳選して開講する。

## 2. 教育課程

### (1) ディプロマポリシー達成のための各回生の到達目標

#### (A) 知識・理解

経営学科のディプロマポリシー

##### A1) 人生を豊かに過ごし、組織において活躍するための文理を越えた幅広い知識

1回生 ； 基礎 ー 知り、試行する ー	文理を越えた多様な知識を知っている。
2回生 ； 応用 ー 理解し、実践する ー	上記の知識を理解し、自分の感性を磨いている。
3回生 ； 発展 ー 実践し、発揮する ー	上記の知識を理解し、問題解決の感性に役立てることができる。
4回生 ； 展望 ー 総合し、展望する ー	上記の知識を、自らの人生や組織・社会を豊かにすることに結び付けられる。

経営学科のディプロマポリシー

##### A2) 専門性の高い各領域を学ぶうえで不可欠となる経営学の基礎的な知識

1回生 ； 基礎 ー 知り、試行する ー	経営学の基礎的な知識を知っている。
2回生 ； 応用 ー 理解し、実践する ー	上記の知識を理解している。
3回生 ； 発展 ー 実践し、発揮する ー	上記の知識を用いて、自分の考えを述べるができる。
4回生 ； 展望 ー 総合し、展望する ー	上記の知識を用いて、自らや社会の過去・現在・未来について論じられる。

経営学科のディプロマポリシー

##### A3) 経営学の特定の領域における専門的な知識

1回生 ； 基礎 ー 知り、試行する ー	経営学の特定の領域における専門的な知識を知っている。
2回生 ； 応用 ー 理解し、実践する ー	上記の知識を理解している。
3回生 ； 発展 ー 実践し、発揮する ー	上記の知識を用いて、自分の考えを述べられる。
4回生 ； 展望 ー 総合し、展望する ー	上記の知識を用いて、自らや社会の過去・現在・未来について論じられる。

#### B) 思考・技能

経営学科のディプロマポリシー

##### B1) 多様な情報ソースから情報を選択的に収集しつつ、自らの意見を論理的に展開し、分かりやすく説明することができる能力

1回生 ； 基礎 ー 知り、試行する ー	図書館活用法および論文・雑誌・新聞記事検索法など信頼できる情報の入手方法や、わかりやすく伝える方法を知り、試用している。
2回生 ； 応用 ー 理解し、実践する ー	上記の方法を実践し、信頼できる情報を集められる。集めた情報を論理的にまとめ、わかりやすく伝えられる。
3回生 ； 発展 ー 実践し、発揮する ー	信頼できる既存の情報を収集するだけでなく、自ら一次情報を獲得、分析し、論理的にわかりやすく伝えられる。
4回生 ； 展望 ー 総合し、展望する ー	信頼できる多様な情報を収集、分析し、過去、現在、未来の自分自身や社会の在り方について、論理的にわかりやすく説明できる。

**B2) AI時代において必須となるさまざまなデジタルツールを活用する能力**

1回生 ； 基礎 ー 知り、試行するー	文章作成、表計算、発表資料作成ソフトの活用法、データサイエンスに関する基礎知識を知り、試用している。
2回生 ； 応用 ー 理解し、実践するー	上記ソフトを活用でき、上記知識を理解している。
3回生 ； 発展 ー 実践し、発揮するー	上記ソフトだけでなく、様々なデジタルツールを活用できる。
4回生 ； 展望 ー 総合し、展望するー	様々なデジタルツールを活用できるとともに、技術の進歩に応じて自らに必要なICTスキルを獲得できる。

**B3) 周囲の人々と協力しつつ目的を達成するための、コミュニケーション能力やリーダーシップ、マネジメント力**

1回生 ； 基礎 ー 知り、試行するー	学内の多様な学生や教職員と相談し合える関係を構築している。上記スキルの基礎知識を知り、試用している。
2回生 ； 応用 ー 理解し、実践するー	学外の社会人と関係を構築することができる。大人とのコミュニケーションの取り方や、上記スキルを理解し、実践できる。
3回生 ； 発展 ー 実践し、発揮するー	学内外の学生や社会人と協力して、目的や目標を達成するために、上記スキルを発揮できる。
4回生 ； 展望 ー 総合し、展望するー	自身が大学生活で身につけた上記スキルについて総括し、今後の伸ばし方や、社会での活かし方を述べられる。

**B4) 専門的知識に裏付けられた課題発見的・論理的思考によって、社会、組織および個人について分析・考察し、それをイノベーションへと展開する能力**

1回生 ； 基礎 ー 知り、試行するー	課題発見的・論理的思考の方法を知り、試用している。
2回生 ； 応用 ー 理解し、実践するー	専門的知識も用いながら上記方法を実践できる。また新しいアイデアを生み出そうとしている。
3回生 ； 発展 ー 実践し、発揮するー	専門的知識を用いつつ上記方法を実践し、革新的なアイデアを導きだすことができる。
4回生 ； 展望 ー 総合し、展望するー	専門的知識を用いつつ上記方法を実践し、革新的なアイデアを実現可能なレベルまで具体化できる。

**(C) 関心・意欲・態度**

**C1) 経済や社会について関心を持ち、日常的に新しい知識や技能を身につけようとする意欲と態度**

1回生 ； 基礎 ー 知り、試行するー	経済や社会、学生生活の過ごし方や生き方に関心を持ち、自律型キャリアを作り上げていこうとしている。
2回生 ； 応用 ー 理解し、実践するー	卒業後のキャリアにも目を向け、自律型キャリアを作り上げていくために行動している。
3回生 ； 発展 ー 実践し、発揮するー	自律型キャリアを作り上げる行動を通じて、経済や社会への関心と卒業後のキャリアを結び付けている。
4回生 ； 展望 ー 総合し、展望するー	学んできた知識と卒業後のキャリアを結び付け、自身の生涯学習をいかに実現していくかを論じられる。

**C2) 自らを取り巻く組織やコミュニティと常に協働して、課題解決に取り組む意欲と態度**

1回生 ； 基礎 ー 知り、試行するー	周囲とコミュニケーションをとり、目的を達成するために行動し、協働しようとしている。
2回生 ； 応用 ー 理解し、実践するー	周囲とコミュニケーションをとり、目的を達成するために行動し、協働している。
3回生 ； 発展 ー 実践し、発揮するー	自発的に、周囲とコミュニケーションをとり、目的を達成するために行動し、協働している。

4回生 ； 展望一総合し、展望する一	学生生活における協働と課題解決の取組ならびに、卒業後の協働や課題解決の方向性について論じられる。
--------------------	--

## (2) 各回生の到達目標達成を支える科目

### 1回生

**1回生は、高校生から大学生への円滑な移行を目指し、各目標項目に対してまずは“知る”ことや“試してみる”ことを目標に学びます。**

4年間の学びの基礎をつくる学年ですから、必修科目や履修指定科目が多いのが特徴です。

A1) は、「知のマインドセット」や各種教養科目で学びます。A2,A3) は、「経営学入門」等の各種専門入門科目で学びます。B1) は「アカデミックスキル」「ライティング基礎」、B2) は、「ITリテラシー」「データサイエンス基礎」、B3) は「プロジェクトマネジメント I」、B4) は「クリティカルシンキング」、C1,C2) は「キャリア開発演習 I」「キャリア開発演習 II」を中心にして身につけることができます。

### 2回生

**2回生は、1回生で学んだ知識に対する“理解”を深め、“実践”することを目標に学びます。**

2回生からは必修科目が少なくなり、自分が目指す方向性や興味・関心、自身の成長課題に則して科目を選択していくことになります。1回生の時に学ぶ“自律的キャリア”の考え方にに基づき、自分に最も適した履修計画を立ててください。

A1) は、各種教養科目に加えてクロスオーバー科目も履修できるようになり、一層学びの幅を広げることができます。A2) では、「ビジネス英語 I・II」等の専門関連科目が履修できるようになります。A3) は、「会計・ガバナンス領域科目」「マーケティング・イノベーション領域科目」「戦略・組織領域科目」という3つの領域科目群から学ぶことになります。B1) では、書く力を伸ばしたい学生は「アカデミックライティング」、調査分析する力を伸ばしたい学生は「社会調査法」を履修することをお勧めします。B2) は、「データサイエンス I」「データサイエンス II」や「AIリテラシー」を通じてAI時代に通じるデジタルツールの活用力を高められます。B3) では必修科目「プロジェクトマネジメント II」に加え、「インターンシップ I」や「海外インターンシップ」を通じて実践力を高めます。B4,C2) では、他学部学生と連携して実践する「クロスオーバー型課題解決プロジェクト」、C1) では、「キャリア開発演習 III」が能力開発の役に立つでしょう。またすべての目標を総合的に高める必修科目として「プロジェクト演習 I」が後期から始まります。

### 3回生

**3回生は、2回生以上に実践力を伸ばし、自分らしさを発揮していくことを目標に学びます。**

2回生までの学びを振り返り、解決すべき自身の成長課題に合わせて履修計画を立てるようにしましょう。3回生で特に重要になるのが、必修科目「プロジェクト演習 II」「プロジェクト演習 III」です。ここでは1年間をかけて専門に則したプロジェクトに取り組みます。プロジェクトの成果は“プロジェクト・プレゼンテーション”として発表会を行う他、“プロジェクト・レポート”としてまとめることを予定しています。自分が身につけたい専門性に合わせて、各科目で養ってきた知識、技能、態度を発揮し、さらに伸ばしていきましょう。また「インターンシップ II」や「ワークエクスペリエンス」「キャリア開発演習 IV」も、自分の将来に直結する形で実践力を高めることに役立つでしょう。

### 4回生

**4回生は、大学生生活の集大成として、これまでの学びを総括し、卒業後の人生を展望することを目標に学びます。**

必修科目「プロジェクト演習 IV」「プロジェクト演習 V」では、4年間の学習成果をまとめ、これからのキャリアについて論じた“学習成果報告書”を作成します。またクラス、あるいは個人によっては“卒業研究”として、自ら研究テーマを掲げて“卒業論文”を執筆します。必要な単位を修得し、かつ学習成果報告書を通じて自身がディプロマポリシー（学位授与方針）にかなっている人物であると証明されれば、晴れて卒業となります。

## 3. 取得できる免許・資格

### (1) 取得可能資格一覧

資格名称	対象学部・学科
教育職員免許状	社会（中1種） 公民（高1種）
司書課程	経営学部 経営学科
学校図書館司書教諭	
博物館学芸員資格課程	
社会教育主事課程	
日本語教員養成	
診療情報管理士認定試験受験資格 ※ただし、一部の科目は随意科目（要卒単位外）として履修することになります。	

(2) 取得可能な免許・資格

中学校教諭一種免許状：社会 ▶	高等学校教諭一種免許状： 公民 ▶	司書課程 ▶
学校図書館司書教諭 ▶	博物館学芸員資格課程 ▶	社会教育主事課程 ▶
日本語教員養成 ▶	診療情報管理士認定試験受験資格 ※ただし、一部の科目は随意科目(要卒単位外)と して履修することになります。 ▶	

## カリキュラムマップ

経営学部 経営学科 ▶	カリキュラム表	科目概要 ▶
-------------	---------	--------

### ▼ 1. 教養教育科目 ▼ 2. 専門教育科目

#### 全学共通の到達目標

- ① 市民や社会人として必要とされる知識や教養の獲得
- ② 知的関心をもって学修していく態度や心構えの獲得
- ③ 市民や社会人として必要とされる倫理観や人間性の獲得
- ④ 異なる考え方や異なる文化を持つ人々を理解する能力の獲得
- ⑤ 自分自身や社会が直面するさまざまな問題を理解し解決する能力の獲得
- ⑥ 物事を論理的に分析する能力の獲得
- ⑦ 読む力や書く力、話す力や聞く力の獲得

#### 学科・コース別の ディプロマ・ポリシー

- ① 人生を豊かに過ごし、組織において活躍するための文理を越えた幅広い知識
- ② 専門性の高い各領域を学ぶうえで不可欠となる経営学の基礎的な知識
- ③ 経営学の特定の領域における専門的な知識
- ④ 多様な情報ソースから情報を選択的に収集しつつ、自らの意見を論理的に展開し、分かりやすく説明することができる能力
- ⑤ AI時代において必須となるさまざまなデジタルツールを活用する能力
- ⑥ 周囲の人々と協力しつつ目的を達成するための、コミュニケーション能力やリーダーシップ、マネジメント力
- ⑦ 専門的知識に裏付けられた課題発見的・論理的思考によって、社会、組織および個人について分析・考察し、それをイノベーションへと展開する能力
- ⑧ 経済や社会について関心を持ち、日常的に新しい知識や技能を身につけようとする意欲と態度
- ⑨ 自らを取り巻く組織やコミュニティと常に協働して、課題解決に取り組む意欲と態度

#### 「科目ナンバリング」制度

本学では、皆さんの体系的な学修を支援するために「科目ナンバリング」制度を導入しています。

各科目に設定された「科目ナンバー」のアルファベットと数字によって、体系的に学修するための情報を得ることができます。ぜひ皆さんの計画的な履修に役立ててください。

#### 科目ナンバーの見方

〈例〉 ○○ - 1 1 1  
          1   2 3 4

1 学科 CO : コア GE : 教養 CA : キャリア IN : 情報  
IS : 留学生科目 BA : 経営学科 EN : 英語

2 回生 1 : 1回生 2 : 2回生 3 : 3回生 4 : 4回生

3 選定の別 コア・教養・キャリア科目 : 0  
                  専門科目 1 : 必修 2 : 選択必修

4 履修順序 同系科目中の履修順序

## 1. 教養教育科目

### (1) コア科目群・教養教育科目群・キャリア教育科目群より選択必修16単位以上

#### コア科目群

#### 【10単位必修】

科目NO	授業科目の名称	単位数	選定の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標
思考コア						

CO101	クリティカルシンキング	2	必修	講義	1回生	①②③④⑤⑥⑦
CO101	数学的思考を身につける	2	選択	講義	1回生	①②⑥
CO101	哲学概論	2	選択	講義	1回生	①②③④⑤⑥
CO101	倫理学概論	2	選択	講義	1回生	①②③④⑤⑥

スキルコア						
科目NO	授業科目の名称	単位数	選必の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標
CO101	ライティング基礎	2	必修	演習	1回生	①②④⑥⑦
CO201	アカデミックライティング	2	選択	演習	2回生	①②④⑥⑦
CO101	ITリテラシー	1	必修	演習	1回生	①②⑥
CO101	データサイエンス基礎	1	必修	演習	1回生	①②⑥
CO101	AIリテラシー	2	選択	講義	2回生	①②⑥
CO201	情報社会論	2	選択	講義	2回生	①②⑥⑦
EN101	英語 I A	1	必修	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦
EN101	英語 I B	1	必修	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦
EN102	英語 II A	1	必修	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦
EN102	英語 II B	1	必修	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦

教養教育科目群

[ 2単位必修 ]

科目NO	授業科目の名称	単位数	選必の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標
GE101	知へのマインドセット	2	必修	講義	1回生	①②③④⑤⑥⑦

現代社会とそのルーツを探る						
科目NO	授業科目の名称	単位数	選必の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標
GE101	歴史から学ぶ	2	選択	講義	1回生	①②⑥
GE101	ジェンダーとダイバーシティ	2	選択	講義	1回生	①②③④⑤
GE101	現代のメディアと表現	2	選択	講義	1回生	①②③⑤
GE201	宗教学概論	2	選択	講義	2回生	①②③④⑤
GE201	国際関係入門	2	選択	講義	2回生	①②③④⑤

社会のなかで自立して生きる						
科目NO	授業科目の名称	単位数	選必の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標
GE101	日本国憲法	2	選択	講義	1回生	①②③⑥
GE201	私たちのくらしと行政	2	選択	講義	2回生	①②⑥

地域の価値を知る						
科目NO	授業科目の名称	単位数	選必の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標
GE101	京都の歴史・文化 I	2	選択	講義	1回生	①②③⑥
GE101	京都の歴史・文化 II	2	選択	講義	1回生	①②③
GE101	文学と京都	2	選択	講義	1回生	①②④

心からたの健康をはくくむ						
科目NO	授業科目の名称	単位数	選必の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標
GE101	健康に生きる	2	選択	講義	1回生	①②④⑤
GE101	スポーツコース I	1	選択	実験・実習	1回生	①②③⑤⑦
GE101	スポーツコース II	1	選択	実験・実習	1回生	①②③⑤⑦
GE201	心理学概論	2	選択	講義	2回生	①②③⑤

自然と共生する						
科目NO	授業科目の名称	単位数	選必の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標
GE101	地球の環境と自然	2	選択	講義	1回生	①②④⑤
GE101	生命と生態系	2	選択	講義	1回生	①②③⑥

異文化との共生							
科目NO	授業科目の名称	単位数	選必の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標	備考
GE101	文化人類学	2	選択	講義	1回生	①②④⑤⑥	-
GE101	比較文化論	2	選択	講義	1回生	①②④⑤⑥	-
GE101	異文化コミュニケーション論	2	選択	講義	1回生	①②④	-
GE101	言語コミュニケーション論	2	選択	講義	1回生	①②⑦	-

GE101	芸術と文化	2	選択	講義	1回生	①②③④⑤	-
EN201	英語 III A	1	選択	演習	2回生	①②④⑤⑥⑦	-
EN201	英語 III B	1	選択	演習	2回生	①②④⑤⑥⑦	-
EN202	英語 IV A	1	選択	演習	2回生	①②④⑤⑥⑦	-
EN202	英語 IV B	1	選択	演習	2回生	①②④⑤⑥⑦	-
GE101	中国語 I	2	選択	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦	-
GE102	中国語 II	2	選択	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦	-
GE103	中国語 III	2	選択	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦	-
GE104	中国語 IV	2	選択	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦	-
GE101	韓国語 I	2	選択	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦	-
GE102	韓国語 II	2	選択	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦	-
GE103	韓国語 III	2	選択	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦	-
GE104	韓国語 IV	2	選択	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦	-
GE101	フランス語 I	2	選択	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦	-
GE102	フランス語 II	2	選択	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦	-
GE101	ドイツ語 I	2	選択	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦	-
GE102	ドイツ語 II	2	選択	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦	-
GE101	外国語臨地演習	2	選択	演習	1回生	①②③④⑤⑦	-
IS101	日本語 I	2	選択	演習	1回生	①②④⑦	外国人留学生 用科目
IS102	日本語 II	2	選択	演習	1回生	①②④⑦	
IS201	日本語 III	2	選択	演習	2回生	①②④⑦	
IS202	日本語 IV	2	選択	演習	2回生	①②④⑦	
IS101	日本事情 I	2	選択	講義	1回生	①②④⑤⑦	
IS102	日本事情 II	2	選択	講義	1回生	①②④⑤⑦	
IS201	日本事情 III	2	選択	講義	2回生	①②④⑤⑦	
IS202	日本事情 IV	2	選択	講義	2回生	①②④⑤⑦	
IS301	日本文化演習 I	2	選択	演習	1回生	①②④⑦	※許可者のみ
IS302	日本文化演習 II	2	選択	演習	1回生	①②④⑦	

キャリア教育科目群

[ 2単位必修 ]

自律型キャリアの育成							
科目NO	授業科目の名称	単位数	選必の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標	
CA101	キャリア開発基礎講座	2	選択	講義	1回生	①②⑤⑥⑦	
CA201	キャリア開発演習 I	2	必修	演習	1回生	①②⑤⑥⑦	
CA201	キャリア開発演習 II	2	選択	演習	1回生	①②⑤⑥⑦	
CA201	キャリア開発演習 III	2	選択	演習	2回生	①②⑤⑥⑦	
CA301	キャリア開発演習 IV	2	選択	演習	3回生	①②⑤⑥⑦	

産学公連携教育							
科目NO	授業科目の名称	単位数	選必の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標	
CA201	インターンシップ I	2	選択	演習	2回生	①②③⑤⑥⑦	
CA301	インターンシップ II	2	選択	演習	3回生	①②③⑤⑥⑦	
CA201	海外インターンシップ	2	選択	演習	2回生	①②③④⑤⑥⑦	
CA201	クロスオーバー型課題解決プロジェクト	2	選択	演習	2回生	①②③⑤⑥⑦	
CA301	ワークエクスペリエンス	2	選択	演習	3回生	①②③⑤⑥⑦	

キャリア構築支援							
科目NO	授業科目の名称	単位数	選必の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標	
CA101	教職入門	2	選択	講義	1回生	①②③	
CA101	教育原論	2	選択	講義	1回生	①④⑤	
CA101	教育心理学	2	選択	講義	1回生	①⑥⑦	
CA201	特別支援教育論	1	選択	講義	2回生	①②③⑤⑦	
CA201	総合的な学習の時間の指導法	1	選択	講義	2回生	①②③⑤⑦	
CA201	教育相談	2	選択	講義	2回生	①③⑤	
CA201	教育制度論	2	選択	講義	2回生	①⑤⑥	
CA201	教育課程論	2	選択	講義	2回生	①④⑤	
CA201	道德教育の理論と方法	2	選択	講義	2回生	①③④⑥	
CA201	特別活動論	2	選択	講義	2回生	①③⑤	
CA201	教育方法論	2	選択	講義	2回生	①③⑥	
CA301	生徒・進路指導	2	選択	講義	3回生	①③④⑤	
CA301	教育実習指導	1	自由	講義	3回生	①⑤⑥	
CA401	教職実践演習 (中等)	2	選択	演習	4回生	①②③⑤⑥⑦	
CA401	教育実習 I	2	自由	実験・実習	4回生	①②③④⑤⑥⑦	
CA401	教育実習 II	2	自由	実験・実習	4回生	①②③④⑤⑥⑦	

CA101	学校等体験活動	1	選択	実験・実習	1回生	①②③⑤⑥⑦
GE101	体育理論	2	選択	講義	1回生	①②⑤
GE101	福祉とボランティア	2	選択	講義	1回生	①②③⑤⑦
GE201	人権と教育	2	選択	講義	2回生	①②③④⑤
CA301	社会科教育法 I	2	自由	演習	3回生	①②③⑤⑦
CA302	社会科教育法 II	2	自由	演習	3回生	①②③⑤⑦
CA303	社会科教育法 III	2	自由	演習	3回生	①②③⑤⑦
CA304	社会科教育法 IV	2	自由	演習	3回生	①②③⑤⑦
CA301	公民科教育法 I	2	自由	演習	3回生	①②③⑤⑦
CA302	公民科教育法 II	2	自由	演習	3回生	①②③⑤⑦
CA201	学校図書館メディアの構成	2	自由	講義	2回生	①②③⑤⑦
CA201	読書と豊かな人間性	2	自由	講義	2回生	①②③⑤⑦
CA201	情報メディアの活用	2	自由	講義	2回生	①②③⑤⑦
CA201	学校経営と学校図書館	2	自由	講義	2回生	①②③⑤⑦
CA201	学習指導と学校図書館	2	自由	講義	2回生	①②③⑤⑦
CA301	教職・保育職教養講義 I	2	選択	講義	3回生	①②⑤⑥⑦
CA302	教職・保育職教養講義 II	2	選択	講義	3回生	①②⑤⑥⑦
CA401	教職・保育職教養講義 III	2	選択	講義	4回生	①②⑤⑥⑦
CA402	教職・保育職教養講義 IV	2	選択	講義	4回生	①②⑤⑥⑦
CA101	生涯学習概論 I	2	選択	講義	1回生	①②③⑤⑦
CA101	生涯学習概論 II	2	自由	講義	1回生	①②③⑤⑦
CA101	図書館概論	2	選択	講義	1回生	①②③⑤⑦
CA201	図書館情報技術論	2	自由	講義	2回生	①②③⑤⑥⑦
CA201	図書館サービス概論	2	自由	講義	2回生	①②③⑤⑥⑦
CA201	図書館情報資源概論	2	選択	講義	2回生	①②③⑤⑦
CA201	情報資源組織論	2	自由	講義	2回生	①②③⑤⑥⑦
CA201	図書館制度・経営論	2	選択	講義	2回生	①②③⑤⑦
CA201	情報サービス論	2	自由	講義	2回生	①②③⑤⑥⑦
CA201	児童サービス論	2	自由	講義	2回生	①②③⑤⑦
CA201	情報サービス演習 I	1	自由	演習	2回生	①②③⑤⑥⑦
CA201	情報サービス演習 II	1	自由	演習	2回生	①②③⑤⑥⑦
CA201	情報資源組織演習 I	1	自由	演習	2回生	①②③⑤⑥⑦
CA201	情報資源組織演習 II	1	自由	演習	2回生	①②③⑤⑥⑦
CA201	図書館情報資源特論	1	自由	講義	2回生	①②③⑤⑦
CA201	図書館施設論	1	自由	講義	2回生	①②③⑤⑦
CA301	図書館実習	1	自由	実験・実習	3回生	①②③⑤⑥⑦
CA101	博物館学概論	2	選択	講義	1回生	①②③⑤⑦
CA101	博物館教育論	2	選択	講義	1回生	①②③⑤⑦
CA101	博物館情報・メディア論	2	自由	講義	1回生	①②③⑤⑦
CA201	博物館資料論	2	選択	講義	2回生	①②③⑤⑦
CA201	博物館経営論	2	選択	講義	2回生	①②③⑤⑦
CA201	博物館展示論	2	選択	講義	2回生	①②③④⑤⑦
CA201	博物館資料保存論	2	選択	講義	2回生	①②③⑤⑦
CA301	博物館実習 I	1	選択	実験・実習	3回生	①②③⑤⑦
CA302	博物館実習 II	1	選択	実験・実習	3回生	①②③⑤⑦
CA401	博物館実習 III	1	自由	実験・実習	4回生	①②③④⑤⑦
CA201	生涯学習支援論 I	2	自由	講義	2回生	①②③⑤⑦
CA202	生涯学習支援論 II	2	自由	講義	2回生	①②③⑤⑦
CA201	社会教育経営論 I	2	自由	講義	2回生	①②③⑤⑦
CA202	社会教育経営論 II	2	自由	講義	2回生	①②③⑤⑦
CA201	社会教育演習	2	自由	演習	2回生	①②③⑤⑦
CA201	社会教育課題研究	1	自由	演習	2回生	①②③⑤⑦
CA301	社会教育実習	1	自由	実験・実習	3回生	①②③⑤⑦
CA201	日本語教授法 I	2	自由	講義	2回生	①②③④⑤⑦
CA202	日本語教授法 II	2	自由	講義	2回生	①②③④⑤⑦
CA301	日本語教授法 III	2	自由	講義	3回生	①②③④⑤⑥⑦
CA302	日本語教授法 IV	2	自由	講義	3回生	①②③④⑤⑥⑦
CA401	日本語教材研究	2	自由	演習	4回生	①②③④⑥⑦
CA401	日本語教育実習	2	自由	実験・実習	4回生	①②③④⑤⑦
JL-L131	日本史概説 I	2	選択	講義	1回生	①②④
JL-L131	日本史概説 II	2	選択	講義	1回生	①②④
HI-Z121	東洋史概説 I	2	選択	講義	1回生	①②④
HI-Z121	西洋史概説 I	2	選択	講義	1回生	①②④
JL-L111	日本語学概説 I	2	自由	講義	1回生	①②⑥
JL-L111	日本語学概説 II	2	自由	講義	1回生	①②⑥
JL-L111	日本文学史 I	2	自由	講義	1回生	①②③
JL-L111	日本文学史 II	2	自由	講義	1回生	①②③
JL-L221	日本語学講義 I (日本語文法)	2	自由	講義	2回生	①②⑥
JL-L221	日本語学講義 II (日本語文法)	2	自由	講義	2回生	①②⑥
JL-L221	日本語学講義 III (社会言語学)	2	自由	講義	2回生	①②⑥

JL-L221	日本語学講義Ⅳ(日本語史)	2	自由	講義	2回生	①②⑥
JL-L221	近現代文学講義Ⅰ	2	自由	講義	2回生	①②③
JL-L221	近現代文学講義Ⅱ	2	自由	講義	2回生	①②③
JL-L221	近現代文学講義Ⅲ	2	自由	講義	2回生	①②③
JL-L221	近現代文学講義Ⅳ	2	自由	講義	2回生	①②③
JL-L221	アナウンス技術演習Ⅰ	2	自由	演習	2回生	①②⑦
JL-L221	アナウンス技術演習Ⅱ	2	自由	演習	2回生	①②⑦
EG101	多文化コミュニケーション論	2	自由	講義	3回生	①④⑤
EG111	英語教育論	2	自由	講義	1回生	①③⑤
EG321	English language Literatures	2	自由	講義	3回生	①③④
EG321	Foundation Translation	2	自由	演習	3回生	②④⑦
EG321	World Englishes	2	自由	講義	3回生	①④⑥
EG321	Japanese-English Comparative Literature	2	自由	講義	3回生	①③④
EG111	英語学	2	自由	講義	1回生	①④⑥
EC101	医療概論	2	選択	講義	1回生	①②⑥⑦
EC101	解剖生理学	2	選択	講義	1回生	①②⑥⑦
EC201	診療情報管理論Ⅰ	2	選択	講義	2回生	①②⑥⑦
EC202	診療情報管理論Ⅱ	2	選択	講義	2回生	①②⑥⑦
EC201	臨床医学Ⅰ	2	選択	講義	2回生	①②⑥⑦
EC201	臨床医学Ⅱ	2	選択	講義	2回生	①②⑥⑦
EC201	臨床医学Ⅲ	2	選択	講義	2回生	①②⑥⑦
EC201	臨床医学Ⅳ	2	選択	講義	2回生	①②⑥⑦
EC201	臨床医学Ⅴ	2	選択	講義	2回生	①②⑥⑦
EC301	臨床医学総論	2	選択	講義	3回生	①②⑥⑦
EC301	病院実務実習	1	選択	実験・実習	3回生	①②⑥⑦
EC301	国際統計分類	4	選択	演習	3回生	①②⑥⑦
EC301	診療情報総合演習Ⅰ	4	自由	演習	3回生	①②⑥⑦
EC302	診療情報総合演習Ⅱ	4	自由	演習	3回生	①②⑥⑦
CA201	産業心理学	2	選択	講義	2回生	①②④⑤⑥
CA301	広告と消費の心理学	2	選択	講義	3回生	①②④⑤⑥

## 2. 専門教育科目

(2) 演習科目群・スキル科目群・基礎科目群・領域科目群・専門関連科目群・クロスオーバー科目群より選択必修68単位以上(スキル科目群より8単位以上、基礎科目群より10単位以上を含むこと)

### 演習科目群

[ 必修16単位 ]

科目NO	授業科目の名称	単位数	選別の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標	学科・コース別のディプロマ・ポリシー
BA111	アカデミックスキル	2	必修	演習	1回生	①②③⑦	④⑤⑥⑧⑨
BA112	プロジェクトマネジメントⅠ	2	必修	演習	1回生	①②③⑦	④⑤⑥⑧⑨
BA211	プロジェクトマネジメントⅡ	2	必修	演習	2回生	①②③⑦	④⑤⑥⑦⑧⑨
BA211	プロジェクト演習Ⅰ	2	必修	演習	2回生	②⑤⑦	②③④⑤⑥⑦⑧⑨
BA312	プロジェクト演習Ⅱ	2	必修	演習	3回生	②⑤⑦	②③④⑤⑥⑦⑧⑨
BA313	プロジェクト演習Ⅲ	2	必修	演習	3回生	②⑤⑦	②③④⑤⑥⑦⑧⑨
BA414	プロジェクト演習Ⅳ	2	必修	演習	4回生	②⑥⑦	②③④⑤⑥⑦⑧⑨
BA415	プロジェクト演習Ⅴ	2	必修	演習	4回生	②⑥⑦	①②③④⑤⑥⑦⑧⑨
BA415	卒業研究	4	選択	演習	4回生	②⑥⑦	②③④⑤⑦⑨

### スキル科目群

科目NO	授業科目の名称	単位数	選別の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標	学科・コース別のディプロマ・ポリシー
BA121	統計学基礎	2	選択	講義	1回生	⑤⑥⑦	②⑤⑦
BA121	社会調査法	2	選択	講義	1回生	⑤⑥⑦	②⑤⑦
BA221	データサイエンスⅠ	2	選択	演習	2回生	⑤⑥⑦	②⑤⑦
BA222	データサイエンスⅡ	2	選択	演習	2回生	⑤⑥⑦	②⑤⑦
BA221	ビジネス英語Ⅰ	2	選択	演習	2回生	②④⑤⑦	②⑥
BA222	ビジネス英語Ⅱ	2	選択	演習	2回生	②④⑤⑦	②⑥

### 基礎科目群

科目NO	授業科目の名称	単位数	選別の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標	学科・コース別のディプロマ・ポリシー
BA121	経営学入門	2	選択	講義	1回生	①②⑤	②⑧
BA121	経済学入門	2	選択	講義	1回生	①②⑤	②⑧
BA121	簿記入門 I	2	選択	演習	1回生	①⑥⑦	②⑧
BA122	簿記入門 II	2	選択	演習	1回生	①⑥⑦	②⑧
BA121	金融入門	2	選択	講義	1回生	①②⑤⑥	②⑧
BA121	マーケティング入門 I	2	選択	講義	1回生	①⑤⑥	②⑧
BA121	経営組織論 I	2	選択	講義	1回生	①②⑤	②⑧
BA121	経営戦略論 I	2	選択	講義	1回生	②⑤⑥	②⑧

領域科目群

会計・ガバナンス領域							
科目NO	授業科目の名称	単位数	選別の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標	学科・コース別のディプロマ・ポリシー
BA221	財務会計論	2	選択	講義	2回生	①⑥	③⑦⑧
BA221	会社法	2	選択	講義	2回生	①②⑤	③⑦⑧
BA221	簿記演習 I	2	選択	演習	2回生	①⑥⑦	③⑦⑧
BA222	簿記演習 II	2	選択	演習	2回生	①⑥⑦	③⑦⑧
BA221	国際金融論	2	選択	講義	2回生	②④⑤⑥	③⑦⑧
BA221	管理会計論	2	選択	講義	2回生	①⑥	③⑦⑧
BA221	保険論	2	選択	講義	2回生	②⑤⑥	③⑦⑧
BA221	金融論	2	選択	講義	2回生	①②⑤⑥	③⑦⑧
BA321	証券市場論	2	選択	講義	3回生	②⑤⑥	③⑦⑧
BA321	経営財務論	2	選択	講義	3回生	①⑥	③⑦⑧
BA321	コーポレート・ファイナンス	2	選択	講義	3回生	②⑤⑥	③⑦⑧
BA321	地域金融論	2	選択	講義	3回生	①②⑤⑥	③⑦⑧
BA321	国際会計論	2	選択	講義	3回生	①⑥	③⑦⑧
BA321	監査論	2	選択	講義	3回生	①②⑤	③⑦⑧
BA321	税法	2	選択	講義	3回生	②③⑤⑥	③⑦⑧

マーケティング・イノベーション領域							
科目NO	授業科目の名称	単位数	選別の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標	学科・コース別のディプロマ・ポリシー
BA221	マーケティング入門 II	2	選択	講義	2回生	①⑤⑥	③⑦⑧
BA221	流通論	2	選択	講義	2回生	⑤⑥⑦	③⑦⑧
BA221	イノベーション・マネジメント	2	選択	講義	2回生	①②⑤⑥	③⑦⑧
BA221	公共マーケティング	2	選択	講義	2回生	①②④⑤	③⑦⑧
BA221	広告とマスメディア	2	選択	講義	2回生	①⑤⑦	③⑦⑧
BA221	マーケティング・リサーチ	2	選択	演習	2回生	④⑤⑥	③⑤⑦⑧
BA321	ロジスティクス論	2	選択	講義	3回生	⑤⑥⑦	③⑦⑧
BA321	マーケティング・コミュニケーション	2	選択	講義	3回生	①⑤⑥	③⑦⑧
BA321	ベンチャービジネス論	2	選択	講義	3回生	①②⑤⑥	③⑦⑧
BA321	グローバル・マーケティング	2	選択	講義	3回生	①⑤⑥	③⑦⑧
BA321	産業財マーケティング	2	選択	講義	3回生	①⑤⑥	③⑦⑧
BA321	サービス・マーケティング	2	選択	講義	3回生	①⑤⑥	③⑦⑧
BA321	知的財産マネジメント	2	選択	講義	3回生	①⑤⑥	③⑦⑧
BA321	技術経営論	2	選択	講義	3回生	①②⑤⑥	③⑦⑧

戦略・組織領域							
科目NO	授業科目の名称	単位数	選別の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標	学科・コース別のディプロマ・ポリシー
BA221	現代企業論 I	2	選択	講義	2回生	①③⑥	③⑦⑧
BA222	現代企業論 II	2	選択	講義	2回生	①③⑥	③⑦⑧
BA222	経営組織論 II	2	選択	講義	2回生	①②⑤	③⑦⑧
BA222	経営戦略論 II	2	選択	講義	2回生	②⑤⑥	③⑦⑧
BA221	経営史	2	選択	講義	2回生	①②⑤	③⑦⑧
BA221	人的資源管理論	2	選択	講義	2回生	①②③	③⑦⑧
BA221	経営情報論	2	選択	講義	2回生	②⑤⑥	③⑤⑦⑧
BA221	中小企業論	2	選択	講義	2回生	①②⑤⑥	③⑦⑧
BA221	ビジネス・ケーススタディ	2	選択	講義	2回生	②⑤⑥	③⑦⑧
BA221	グローバル経営論 I	2	選択	講義	2回生	②④⑤⑥	③⑦⑧
BA322	グローバル経営論 II	2	選択	講義	3回生	②④⑤⑥	③⑦⑧
BA321	労働法	2	選択	講義	3回生	①②⑤	③⑦⑧
BA321	非営利組織論	2	選択	講義	3回生	②③⑤	③⑦⑧
BA321	生産管理論	2	選択	講義	3回生	①②⑤	③⑦⑧
BA321	環境経営論	2	選択	講義	3回生	①②⑤	③⑦⑧

専門関連科目群

科目NO	授業科目の名称	単位数	選別の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標	学科・コース別のディプロマ・ポリシー
BA221	実践英語演習	2	選択	演習	2回生	①②④⑤⑥⑦	①⑧⑨
BA121	ビジネス演習 I	2	選択	演習	1回生	①④⑤	②③⑧⑨
BA122	ビジネス演習 II	2	選択	演習	1回生	①④⑤	②③⑧⑨
BA221	ビジネス演習 III	2	選択	演習	2回生	①④⑤	②③⑧⑨
BA222	ビジネス演習 IV	2	選択	演習	2回生	①④⑤	②③⑧⑨
BA321	ビジネス演習 V	2	選択	演習	3回生	①④⑤	②③⑧⑨
BA322	ビジネス演習 VI	2	選択	演習	3回生	①④⑤	②③⑧⑨
BA121	法学概論 I	2	選択	講義	1回生	①②③⑥	①⑧
BA122	法学概論 II	2	選択	講義	1回生	①②③⑥	①⑧
BA121	政治学概論 I	2	選択	講義	1回生	①②③④	①⑧
BA122	政治学概論 II	2	選択	講義	1回生	①②③④	①⑧
BA121	社会学概論 I	2	選択	講義	1回生	①②③④⑤	①⑧
BA122	社会学概論 II	2	選択	講義	1回生	①②③④⑥	①⑧
BA121	地理学概論	2	選択	講義	1回生	①②④⑥	①⑧
BA221	地誌	2	選択	講義	2回生	①②④⑥	①⑧

クロスオーバー科目群

科目NO	授業科目の名称	単位数	選別の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標	学科・コース別のディプロマ・ポリシー
BA221	地域経済論	2	選択	講義	2回生	①②⑤⑥	①⑧
BA221	租税論	2	選択	講義	2回生	②③⑤⑥	①⑧
BA321	自治体経営論	2	選択	講義	3回生	②③⑤⑥	①⑧
BA321	医療政策論	2	選択	講義	3回生	②③⑤⑥	①⑧
BA321	医療事務研究 I	2	選択	演習	3回生	①③⑤	①⑧
BA322	医療事務研究 II	2	選択	演習	3回生	①③⑤	①⑧
BA321	スポーツ経済論	2	選択	講義	3回生	④⑤⑥	①⑧
BA321	観光経営論	2	選択	講義	3回生	①②⑤	①⑧
BA221	コンピュータシステム概論	2	選択	講義	2回生	①②⑤⑥	①⑤⑧
BA221	プログラミング演習 I	2	選択	演習	2回生	①②⑤⑥	①⑤⑧
BA222	プログラミング演習 II	2	選択	演習	2回生	①②⑤⑥	①⑤⑧
BA221	コンピュータネットワーク I	2	選択	講義	2回生	①②⑤⑥	①⑤⑧
BA221	情報セキュリティ I	2	選択	講義	2回生	①②③⑤	①⑤⑧

※ 卒業に必要な単位数は124単位以上とし、【教養教育科目】のコア科目群より必修10単位、教養教育科目群より必修2単位、キャリア教育科目群より必修2単位、コア科目群・教養教育科目群・キャリア教育科目群より選択必修16単位以上、【専門教育科目】の演習科目群より必修16単位、演習科目群・スキル科目群・基礎科目群・領域科目群・専門関連科目群・クロスオーバー科目群より選択必修68単位以上(スキル科目群より8単位以上、基礎科目群より10単位以上を含むこと)を修得すること。(履修科目の登録の上限：48単位 [年間])

# カリキュラム表

経営学部 経営学科 ▶	カリキュラムマップ	科目概要 ▶
-------------	-----------	--------

<b>30単位以上</b> コア科目群+ 教養教育科目群+ キャリア教育科目群	<b>16単位</b> 専門教育科目群 [必修]	<b>68単位以上</b> 専門教育科目群 [選択必修]	<b>10単位以上</b>
--	--------------------------------	------------------------------------	---------------

合計  
**124**単位以上

## 1. 教養教育科目

**30**単位以上

**必修** コア科目群・教養教育科目群・キャリア教育科目群より14単位

コア科目群／10単位

### 思考コア

	単位	回生
クリティカルシンキング	2	1～

### スキルコア

	単位	回生
ライティング基礎	2	1～
ITリテラシー	1	1～
データサイエンス基礎	1	1～
英語 I A	1	1～
英語 I B	1	1～
英語 II A	1	1～
英語 II B	1	1～

教養教育科目群／2単位

	単位	回生
知へのマインドセット	2	1～

キャリア教育科目群／2単位

### 自律型キャリアの育成

	単位	回生
キャリア開発演習 I	2	1～

**選択必修** コア科目群・教養教育科目群・キャリア教育科目群より16単位以上

コア科目群

### 思考コア

	単位	回生
数学的思考を身につける	2	1～
哲学概論	2	1～
倫理学概論	2	1～

### スキルコア

	単位	回生
アカデミックライティング	2	2～
AIリテラシー	2	2～
情報社会論	2	2～

教養教育科目群

### 現代社会とそのルーツを探る

	単位	回生
歴史から学ぶ	2	1～
ジェンダーとダイバーシティ	2	1～
現代のメディアと表現	2	1～
宗教学概論	2	2～
国際関係入門	2	2～

### 社会のなかで自立して生きる

	単位	回生
日本国憲法	2	1～
私たちのくらしと行政	2	2～

### 地域の価値を知る

	単位	回生
京都の歴史・文化 I	2	1～
京都の歴史・文化 II	2	1～
文学と京都	2	1～

### 心とからだの健康をはぐくむ

	単位	回生
健康に生きる	2	1～
スポーツコース I	1	1～
スポーツコース II	1	1～
心理学概論	2	2～

### 自然と共生する

	単位	回生
地球の環境と自然	2	1～
生命と生態系	2	1～

### 異文化との共生

	単位	回生
文化人類学	2	1～
比較文化論	2	1～
異文化コミュニケーション論	2	1～
言語コミュニケーション論	2	1～
芸術と文化	2	1～
英語 III A	1	2～
英語 III B	1	2～
英語 IV A	1	2～
英語 IV B	1	2～

	単位	回生
中国語 I	2	1～
中国語 II	2	1～
中国語 III	2	1～
中国語 IV	2	1～
韓国語 I	2	1～
韓国語 II	2	1～
韓国語 III	2	1～
韓国語 IV	2	1～

	単位	回生
フランス語 I	2	1～
フランス語 II	2	1～
ドイツ語 I	2	1～
ドイツ語 II	2	1～
外国語臨地演習	2	1～
日本文化演習 I	2	1～
日本文化演習 II	2	1～

### キャリア教育科目群

#### 自律型キャリアの育成

	単位	回生
キャリア開発基礎講座	2	1～
キャリア開発演習 II	2	1～
キャリア開発演習 III	2	2～
キャリア開発演習 IV	2	3～

#### 産学公連携教育

	単位	回生
インターンシップ I	2	2～
インターンシップ II	2	3～
海外インターンシップ	2	2～
クロスオーバー型課題解決プロジェクト	2	2～
ワークエクスぺリエンス	2	3～

#### キャリア構築支援

	単位	回生
教職入門	2	1～
教育原論	2	1～
教育心理学	2	1～
特別支援教育論	1	2～
総合的な学習の時間の指導法	1	2～
教育相談	2	2～
教育制度論	2	2～
教育課程論	2	2～
道德教育の理論と方法	2	2～
特別活動論	2	2～
教育方法論	2	2～
生徒・進路指導	2	3～
教職実践演習 (中等)	2	4
学校等体験活動	1	1～
体育理論	2	1～
福祉とボランティア	2	1～
人権と教育	2	2～
教職・保育職教養講義 I	2	3～
教職・保育職教養講義 II	2	3～
教職・保育職教養講義 III	2	4
教職・保育職教養講義 IV	2	4

	単位	回生
生涯学習概論 I	2	1～
図書館概論	2	1～
図書館情報資源概論	2	2～
図書館制度・経営論	2	2～
博物館学概論	2	1～
博物館教育論	2	1～
博物館資料論	2	2～
博物館経営論	2	2～
博物館展示論	2	2～
博物館資料保存論	2	2～
博物館実習 I	1	3～
博物館実習 II	1	3～
日本史概説 I	2	1～
日本史概説 II	2	1～
東洋史概説 I	2	1～
西洋史概説 I	2	1～

	単位	回生
医療概論	2	1～
解剖生理学	2	1～
診療情報管理論 I	2	2～
診療情報管理論 II	2	2～
臨床医学 I	2	2～
臨床医学 II	2	2～
臨床医学 III	2	2～
臨床医学 IV	2	2～
臨床医学 V	2	2～
臨床医学総論	2	3～
病院実務実習	1	3～
国際統計分類	4	3～
産業心理学	2	2～
広告と消費の心理学	2	3～

## 2. 専門教育科目

84単位以上

必修 演習科目群より16単位

演習科目群/16単位

	単位	回生
アカデミックスキル	2	1～
プロジェクトマネジメント I	2	1～
プロジェクトマネジメント II	2	2～
プロジェクト演習 I	2	2～
プロジェクト演習 II	2	3～
プロジェクト演習 III	2	3～
プロジェクト演習 IV	2	4

プロジェクト演習 V	2	4
------------	---	---

選択必修 演習科目群・スキル科目群・基礎科目群・領域科目群・専門関連科目群・クロスオーバー科目群より68単位以上（スキル科目群より8単位以上、基礎科目群より10単位以上を含む。）

演習科目群

	単位	回生
卒業研究	4	4

スキル科目群／8単位以上

	単位	回生
統計学基礎	2	1～
社会調査法	2	1～
データサイエンス I	2	2～
データサイエンス II	2	2～
ビジネス英語 I	2	2～
ビジネス英語 II	2	2～

基礎科目群／10単位以上

	単位	回生
経営学入門	2	1～
経済学入門	2	1～
簿記入門 I	2	1～
簿記入門 II	2	1～
金融入門	2	1～
マーケティング入門 I	2	1～
経営組織論 I	2	1～
経営戦略論 I	2	1～

領域科目群

会計・ガバナンス領域

	単位	回生
財務会計論	2	2～
会社法	2	2～
簿記演習 I	2	2～
簿記演習 II	2	2～
国際金融論	2	2～
管理会計論	2	2～
保険論	2	2～
金融論	2	2～
証券市場論	2	3～
経営財務論	2	3～
コーポレート・ファイナンス	2	3～
地域金融論	2	3～
国際会計論	2	3～
監査論	2	3～
税法	2	3～

マーケティング・イノベーション領域

	単位	回生
マーケティング入門 II	2	2～
流通論	2	2～
イノベーション・マネジメント	2	2～
公共マーケティング	2	2～
広告とマスメディア	2	2～
マーケティング・リサーチ	2	2～
ロジスティクス論	2	3～
マーケティング・コミュニケーション	2	3～
ベンチャービジネス論	2	3～
グローバル・マーケティング	2	3～
産業財マーケティング	2	3～
サービス・マーケティング	2	3～
知的財産マネジメント	2	3～
技術経営論	2	3～

戦略・組織領域

	単位	回生
現代企業論 I	2	2～
現代企業論 II	2	2～
経営組織論 II	2	2～
経営戦略論 II	2	2～
経営史	2	2～
人的資源管理論	2	2～
経営情報論	2	2～
中小企業論	2	2～
ビジネス・ケーススタディ	2	2～
グローバル経営論 I	2	2～
グローバル経営論 II	2	3～
労働法	2	3～
非営利組織論	2	3～
生産管理論	2	3～
環境経営論	2	3～

専門関連科目群

	単位	回生
実践英語演習	2	2～
ビジネス演習 I	2	1～
ビジネス演習 II	2	1～
ビジネス演習 III	2	2～
ビジネス演習 IV	2	2～
ビジネス演習 V	2	3～
ビジネス演習 VI	2	3～
法学概論 I	2	1～
法学概論 II	2	1～
政治学概論 I	2	1～
政治学概論 II	2	1～
社会学概論 I	2	1～
社会学概論 II	2	1～
地理学概論	2	1～
地誌	2	2～

クロスオーバー科目群

	単位	回生
地域経済論	2	2～
租税論	2	2～
自治体経営論	2	3～
医療政策論	2	3～
医療事務研究 I	2	3～
医療事務研究 II	2	3～
スポーツ経済論	2	3～
観光経営論	2	3～
コンピュータシステム概論	2	2～
プログラミング演習 I	2	2～
プログラミング演習 II	2	2～
コンピュータネットワーク I	2	2～
情報セキュリティ I	2	2～

## 科目概要

経営学部 経営学科 ▶

カリキュラムマップ ▶

カリキュラム表 ▶

▼ 1. コア科目群

▼ 2. 教養教育科目群

▼ 3. キャリア教育科目群

▼ 4. 専門科目群

### 1. コア科目群

#### 思考コア

#### クリティカルシンキング

正しく課題を認識し、適切な判断・分析・統合をすることで最適解を導くための思考方法（クリティカルシンキング）を学ぶ。このことにより、他者の意見を批判的・分析的に検証する力、他者の意見に含まれる問題点を合理的な方法で指摘できる力、自らの意見に対する批判に対して合理的に回答する力、議論に含まれる問題を出発点として、よりよい解決策や代替案を提案する力などの獲得をめざす。

#### 数学的思考を身につける

日常生活や仕事でさまざまな問題、さらに環境などの社会的課題を考えるうえで、数学は欠かせない。この科目では、将来、市民としての確かな判断を下すために役に立つ数学的考え方や概念を、現実の課題を考えるなかで学習する。扱うのは、経済や環境を考えるうえで重要な指数・対数、刻々と変化する様子から全体を知るための差分や微積分、社会の集団現象を分析するための統計や確率などである。授業では、これらの数学の必要性を理解することを目標とする。

#### 哲学概論

市民や社会人として必要とされる倫理観や人間性の養成、異なる考え方や異なる文化を持つ人々を理解する能力の養成を目的とする。哲学は何を問題にしてきたのか、またそれにどのように取り組んできたか、そしてその問いは私たちにとってどんな意味をもつのかについて、さまざまな哲学者の著作を通して考える。

#### 倫理学概論

倫理学とは何か、倫理学にどのような意義があるのかを理解し、倫理的な考え方を身につけることを目標とする。社会正義を考えるをテーマとして学びを進め、近代以降の倫理学の学説を中心に、倫理的な考え方の基礎を歴史的背景を含めて理解し、現代社会の諸問題を考えるうえで倫理的な思考法の意義と重要性を知る。

#### スキルコア

#### ライティング基礎

大学でのスタディ・スキルとして必要とされる読解力や基本的な文章作成能力の獲得をめざす。演習を通して文章を読む力を養成しながら、添削指導等により、論理的な論説文を書くために必要な文章構成力や推敲の能力を獲得する。

#### アカデミックライティング

大学での学修で求められる学術的文章を書く技術を、演習を通じて獲得する。大学における学術的文章には、授業で課されるレポート、実習レポート、卒業論文等が含まれる。本科目により、内容が正確に伝わるわかりやすい文章、かつ客観的な評価に耐えうる文章を書く力の獲得をめざす。

#### ITリテラシー

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を、演習を通して習得する。具体的には、Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養うとともに、情報社会におけるさまざまな危険を防ぐための知識、情報を扱ううえでのマナーを身につける。

データサイエンス基礎

AIリテラシー

情報社会論

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していくなかで、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本科目では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを演習を通して学習する。具体的には、一連の情報プロセス（収集、分析、整理・保管、表現、運用）の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身につける。

実社会において人工知能（AI）が活用される機会は大きくなってきている。日常生活のなかで、あるいは職業生活のなかでAIを活用するにあたり、その仕組みやAIを使ってできることとその限界を学び、AIをツールとして使いこなせる力（AIリテラシー）を獲得する。

情報通信技術が現代社会をどのように支えているのか、また、現在どのような課題があり、今後社会をどのように変えていくのかを学ぶ。テキストを中心に、適宜スライドや配布資料、政府や団体の公開資料等を用いる。理解の深化と確認のため、レポート提出や複数回の理解度テストを実施する場合がある。

#### 英語 I A

基本的な英文の読解・表現の演習を通して、英語理解のための基礎的な知識（基本文型的分析や文法的知識・基本単語・成句など）を整理し、英語の表現方法と日本語の表現方法の違いを考えた上で、実用的に使える英語力を身につけ、英語運用能力のうち、特にリーディングとライティングの技能を発展させていく。

#### 英語 I B

平易な英語のリスニング・スピーキング・プレゼンテーションの演習を通して、英語理解のための基礎的な知識（基本文型的分析や文法的知識・基本単語・成句など）を整理し、英語の表現方法と日本語の表現方法の違いを考えた上で、実用的に使える英語力を身につけ、英語運用能力のうち、特にリスニングとスピーキングの技能を発展させていく。

#### 英語 II A

スキミング、スキヤニング、主題の把握、推論など、効果的に英文を読むために欠かせないリーディングスキルの修得をめざす。また、必要なリーディングスキルを用いて、さまざまなトピックについての読み物を読み、演習問題などを通して、それらトピックに対する自分の意見を表現できるライティング能力を向上させることをめざす。

#### 英語 II B

効果的に英語を聞きとるために欠かせないさまざまなリスニングスキルの修得をめざす。それらのリスニングスキルを用いて、さまざまなジャンルのリスニング教材を聴き、演習問題などを通して、それらトピックに対する自分の意見をプレゼンテーションできる能力を向上させることをめざす。

## 2. 教養教育科目群

- ▼ 現代社会とそのルーツを探る
- ▼ 社会のなかで自立して生きる
- ▼ 地域の価値を知る
- ▼ 心とからだの健康をはぐくむ
- ▼ 自然と共生する
- ▼ 異文化との共生

#### 知へのマインドセット

本科目は、本学の教養教育課程全体の基盤的科目のひとつであり、本科目で学んだ基礎の上に、その後の教養教育課程に設定する多様な科目の学びを重ねることにより、「社会を構成する知的市民としてのマインドセット」の獲得をめざすものである。また、本科目を受講することにより、本学の教学理念を理解したうえでその後の学びを進められるようにするための科目としても位置付ける。そのため、まずは本学の教学理念を学んだうえで、本学に設置する多様な学部から、それぞれの学問領域の基礎を学び、各学問領域を学ぶ意義を理解する。

（オムニバス方式／全14回）

現代社会とそのルーツを探る

#### 歴史から学ぶ

**概要：**歴史学の学問としての方法論を知るとともに、多様な視点から事象を理解する姿勢を身につける。世界史と日本史分野の教員が担当し、歴史学を学ぶうえで必要な学問的方法論に

#### ジェンダーとダイバーシティ

ジェンダーは人種・民族・階級とともに、人間の歴史的経験を作り上げる最も基本的な要素である。この科目では社会・文化・政治・宗教・教育において、ジェンダーがどのように作用し

#### 現代のメディアと表現

今日、日本のメディア・コンテンツは世界的な文化として高く評価されつつある。その理由はいくつかあるが、もっとも重要なのは、単なるサブ・カルチャーの域を出て、現代文明に対す

ついでに理解を深める。授業においては特に日本と異文化の接触・交流の視点や、文献史学以外の学問研究の視点に留意するとともに、史料を的確に読む重要性について徹底的に講義する。

#### 宗教学概論

宗教とはいったい何なのか、そして人はなぜ宗教を求めるのか、といった問題を考えることを通じて、私たちは宗教とどのように向き合っていくのがもっとも適切なのかについて、自分なりの考えを形成する。具体的には、客観的で科学的な立場から、宗教の歴史を概観し、有神論と無神論、創唱宗教と自然宗教といった分類のしかたなどを考察する。

てきたかを考察する。また、人間の差異によって作りだされる支配関係を明らかにするジェンダーの視点をを用いて今日的な課題を考える。

#### 国際関係入門

グローバル化の進展した今日では、ヒト・モノ・カネの移動を身近に感じ、国内のあらゆる事象が国際社会と密接につながっている。本科目を通じて、国際関係を理解するうえで基礎となるものの見方・考え方や、複雑化・多様化する現代の国際関係を的確に捉え、問題解決に向けて自ら思考し解決策を見出す力を養うことを目標とする。

る警鐘を鳴らすような、知的水準の高い創作活動を実現していることがあげられる。その意味では、かつての純文学とよく似た役割を、日本の映像メディアは今や担っている。こうした観点に立って、日本の映像文化について考える。

#### 社会のなかで自立して生きる

##### 日本国憲法

日常生活のなかで見え隠れするさまざまな社会的な問題を考え、対処するために必要な、日本国憲法に表された基本的な思考を身につける。また、これを理解するために必要な基本的知識を身につけることを目標とし、基本的な事柄をできる限り分かりやすく解説していく。

##### 私たちのくらしと行政

国と自治体の行政活動と社会問題の繋がりについて説明できるようになる、行政に関する制度について市民社会との関係のなかで理解し説明できるようになる、公共政策の実際について分析し説明できるようになることを目標とする。行政は変化し続ける社会への対応を迫られており、その果たすべき役割は、社会との関係のなかで問われている。そのため、行政と外部との関係に着目しながら学んでいく。

#### 地域の価値を知る

##### 京都の歴史・文化 I

京都の複合する遺跡から京都の歴史と文化を探る。考古資料をもとに京都の地下の文化財に触れ、京文化の根源を学び、探り、理解し、考えてみる。そして京都の遺跡からわかる歴史と文化の表現方法の取得に向う。平安京以前からの、京都の遺跡を学習する。適宜、歩き探る京都を紹介する。

##### 京都の歴史・文化 II

本科目は、京都橘大学と総本山醍醐寺の学術交流協定に基づく科目である。京都に伝わる文化財が、いかにして伝承されてきたかを学ぶ。同時に文化財を生み出した京都の文化とその将来を考える。現代まで受け継がれてきたさまざまな文化について講義する。さらに醍醐寺に残る文化財、信仰行事に接する機会を設け、日本文化について考察を進める。

##### 文学と京都

古典から近現代文学まで、京都が小説でどのように描かれ、そのなかでどのような物語が生成されてきたかを考える。21世紀の作家の小説のなかで、京都を舞台とし、学生（主に大学生）が登場する作品を読み、近代の名作との共通点と相違点を考える。

#### 心とからだの健康をはぐくむ

##### 健康に生きる

「健康」「生きる」「健康に生きる」について、政治、経済、文化、社会、教育、保健医療システム等、さまざまな視点から現象をとらえ、自分自身の健康に生きるについて考えることはもちろん、家族、コミュニティ、日本国内、世界の健康に生きるについても考える。

##### スポーツコース I

ソフトバレーボールと6人制バレーボールを教材として基礎体力と技術のスキルアップを図り、またスポーツの必要性を学び、自己の健康管理や怪我なく楽しく運動するために最も必要なルールやマナーを身につける。同時にグループ（チーム）を通し、コミュニケーション・スキルの向上を図る。

##### スポーツコース II

生涯スポーツの必要性を学び、スポーツの実践をとおして、自己の健康管理ができる基礎能力を養う。特にレクリエーションスポーツを中心に楽しく運動することができる習慣と能力を身につける。バドミントンと卓球の基本的な技術練習とルールの理解から始め、シングルスおよびダブルスでのリーグ戦形式でのゲームを中心に行う。

##### 心理学概論

「こころ」は誰もが毎日働かせているものであり、対人関係や社会生活について考えるうえでも「こころ」を抜きにすることはできない。こうした身近な存在であるがゆえに、関心を持つ人は多いが、誤解されることがや表層的な理解にとどまることも多いと考えられる。そこでこの科目では、自然科学の一種としての心理学の全体像を概観する。そのことで、受講者の持っていた興味や関心が正確な知識とつながり、さらに自らで考えることができるようになるための

基礎づくりを目標とする。授業では、生理、知覚、認知、社会、教育、発達、人格、臨床といった心理学の諸分野にわたって広く概説し、心理学の基礎的な知識や、その考え方を身につけられるように進めていく。

#### 自然と共生する

##### 地球の環境と自然

政策と個人々の取り組みとの両面から、環境問題の解決に向けた取り組みについて考察する。環境問題を発生させ拡大させる社会的な要因について分析し、それらへの対応策について研究する。そして、個々の生活と環境問題の関係性について学び、さらに市民、NPO、行政、企業などの多様な主体が連携して進める持続可能な社会に向けた取り組みの現状と課題について学ぶ。

##### 生命と生態系

地球の誕生から現在に至るまでの地球と生物の歴史を学ぶ。そのなかでも特に、人類が進化・発展してきた第四紀と呼ぶ現代社会と密接に関係する時代を、人類の諸特徴とともに、氷河の消長、海水準変動、植生変遷などの古地理に係る変遷、および生物地理と人類の拡散などの事象を通して理解することを目標にする。これらは地層そのものと地層中に含まれる化石や考古遺物などの証拠に基づくものであるから、層序と地層の対比、地質学・堆積学の諸法則、化石の二面性、堆積と浸食、堆積構造と変形構造などの地層学の基礎事項の理解を図るとともに、現代生活にも係る火山噴火や地震、土石流などの地盤災害の事例と、その原因も合わせて学習する。

#### 異文化との共生

### 文化人類学

我々人類は、多様な生活習慣をもち、さまざまな文化を形成している。文化人類学は人間の科学といわれ、個別文化の調査・分析から文化の普遍的な法則を見つけ出し、そこに表れる人間行動の諸相を明らかにすることを目的としている。本科目では、まず、文化人類学がどのような学問なのかを理解することから始め、その研究史、研究視角、調査方法について解説し、さらに具体的な研究事例も取り上げる。

### 比較文化論

世界は「謎」に満ちている。私たちの想像や理解を超えたことが頻発している。そうした「謎」を、自分には関係ないと簡単に退けず、自分を、そして自分を形作ってきた「文化」というとらえどころのないものを理解する最良の機会と考えられるようになったら——これがこの科目の最大の目標である。世界で起こっているさまざまな問題の背景にある文化、価値観、思考様式を知り、そうした問題と自分がどう関わるのかを考えることを通して、さまざまな文化について理解するとは、すなわち自分が変わることであることを理解する。

### 異文化コミュニケーション論（人文）

本科目は、異文化を実際にどのように理解すればいいのかを考える。そして、諸外国の文化や歴史を理解することの重要性と、それがまた日本を理解する鍵となることを学ぶ。年表や各種の歴史的な史料、新聞記事や写真、画像などを紹介しながら進める。

### 言語コミュニケーション論

日常あらゆる人が行うコミュニケーションにおいて、言語がどのような役割を担っているのかを知る。言語を客観的に捉える姿勢を身につける。言語学の諸分野について講義を行い、そのなかでコミュニケーション上の言語の役割について説明していく。

### 芸術と文化

芸術と文化の関わりなどについて、芸術の歴史や哲学、美術、音楽など総合芸術をテーマとして学ぶ。また、美術や音楽、映像などの芸術を鑑賞し、現在さまざまな試みられている芸術表現などを取り上げ、芸術による文化発展の可能性や問題について考察する。

### 英語 III A

TOEICに出題される英文を題材にして、さまざまなトレーニング形式のアクティビティを行い、TOEICの問題を中心とした演習を進めながら英語運用能力を身につける。特に、リーディング面の英語運用能力の向上をめざして、語彙力の強化にも重点を置いた授業を展開する。

### 英語 III B

TOEICに出題される英文を題材にして、通訳・リピーティング・ディクテーションなどのさまざまなトレーニング形式のアクティビティを行い、TOEICの出題形式の演習問題を行いながら英語運用能力を身につける。特に、リスニング面に重点を置いて、さまざまなジャンルの英語の聞き取り能力の向上をめざす。

### 英語 IV A

日常的な話題について質問・応答ができる表現力、基本的な文法・語彙を使って文章が書ける作文力の修得のため、TOEICに出題される英文を題材にして、音読・通訳・リピーティング・ディクテーションなどのさまざまなトレーニング形式のアクティビティを行っていく。

### 英語 IV B

さまざまなトピックについて英語でプレゼンテーションができる表現力の修得のため、さまざまなトレーニング形式のアクティビティを行っていく。さらに、プレゼンテーションに対して、適切なコメントや質問をする能力も身につくようにしたい。

### 中国語 I

中国語の発音と文法の基礎を身につけるため、数字、人称代名詞、名詞、動詞の文、疑問文、疑問詞、形容詞の文、助数詞、時間、年月日、時刻、前置詞の表現などの各種の練習をする。

### 中国語 II

中国語のさまざまな基本短文を作ることができるように、変化、完了、進行、持続、経験を表す表現、助動詞、補語、比較形、受身と使役などの表現方法を学ぶ。

### 中国語 III

中国語の長い文章に慣れることを目的として、文章を読み進める練習と、一字一句の意味をきちんと確認する方法を併用しながら、易しい文章を大量に読むことによって、まず中国語に慣れることをめざす。文章の内容は、日本や中国の観光地、歴史的事件、食べ物、祝日などを題材にする。

### 中国語 IV

基礎的な文法を踏まえて、聞き取りの練習、自由表現の練習、対話の練習などを繰り返しながら、中国語でのコミュニケーションができることをめざす。毎回の授業で、中国の文化、習慣、生活、最新ニュースを紹介する。

### 韓国語 I

初めて韓国語を学ぶ人のために、文字の仕組みから親しんで、発音法則を理解するほか、挨拶や正確な文章の読みなどを徹底的に学習する。なお、韓国文化を理解してもらうために、韓国人の生き方・歴史・社会・文化、特に食文化などにも触れる。

### 韓国語 II

韓国の文字と発音をマスターした人が、次に進む段階として、ここでは文法＋会話＋講読に重点を置き、基礎文法と基礎会話力を固めると同時に、簡単な読み書きができるように学習する。また、韓国の文化に関わるものを講読のテキストとし、韓国の文化に親しむ。

### 韓国語 III

会話＋講読＋聴解力＋作文に重点を置く。韓国語 I・II で学んだ力を生かして、表現力を増やし、より自然な会話の習得をめざす。聴解力のアップとあわせて、場面ごとに正確な会話ができるように進め、また日常よく使う表現を作文できるように学習する。

### 韓国語 IV

韓国語だけで授業を行い、自由会話を中心に聴解力をつけ、韓国の中学生以上の会話運用能力をつけるために学習する。この授業では、自由会話＋スピーチができることを目的とし、学生たちによるスピーチと韓国映画鑑賞によってその力を身につける。

### フランス語 I

フランス語の発音と、文法の重要な規則のうち、もっとも基礎的な部分を学び、それを用いた短い文を聴き、話し、読み、書く力を修得する。

### フランス語 II

フランス語の発音、文法などの基礎知識を踏まえて、やや高度な文法事項を学び、それらを用いた文を聴き、話し、読み、書く力を身につける。

### ドイツ語 I

ドイツ語のもっとも基本的な規則（発音の仕方と文法）を一つずつ学ぶ。できるだけ多く反復練習（リーダーの講読、教科書の練習問題、そ

### ドイツ語 II

ドイツ語 I で学んだ規則をもとに、新たな規則修得の段階に進む。ドイツ語 I と同様に、リーダーの講読、練習問題、作文をできるだけ多く

	の規則を含む短い作文など)をとり入れ、一つひとつの規則を確実に身につける。	とり入れ、規則を一つひとつ確実に身につけることを主眼とする。
<b>外国語臨地演習</b> 外国語を、実際に使われている土地で学び、運用能力を高めるための科目である。中国、韓国などの協定大学で寮生活を送りながら、およそ1か月のプログラムを学修する。授業は午前中で、午後に適宜見学などが配置されている。プログラム終了直前には、文化遺産見学ツアーも予定される。	<b>日本語 I (外国人留学生科目)</b> <b>概要:</b> 週2回の授業を「読解・作文」と「理解・会話」の2つに分け、日本での生活全般および大学での学習に必要な基礎的な理解力・表現力を身につける。 (オムニバス方式/全28回)	<b>日本語 II (外国人留学生科目)</b> <b>概要:</b> 週2回の授業を「読解・作文」と「理解・会話」の2つに分け、日本での生活全般および大学での学習に必要な基礎的な理解力、表現力をさらに高めていく。 (オムニバス方式/全28回)
<b>日本語 III (外国人留学生科目)</b> <b>概要:</b> 週2回の授業を「読解・作文」と「理解・会話」の2つに分け、日本での生活全般および大学での学習に必要とされる高度な理解力、表現力を身につけていく。特に語彙を増やすこと、多彩な表現を身につけることに重点を置く。 (オムニバス方式/全28回)	<b>日本語 IV (外国人留学生科目)</b> <b>概要:</b> 週2回の授業を「読解・作文」と「理解・会話」の2つに分け、日本での生活全般および大学での学習に必要とされる高度な理解力、表現力を身につけていく。各自の専攻に関わる論文の読み方、書き方を学ぶことを重点とする。 (オムニバス方式/全28回)	<b>日本事情 I (外国人留学生科目)</b> さまざまな読みものを読むことを中心に、新聞、DVDなどの副教材も活用して、現在の日本と日本人についての知識を身につける。また、発表やディスカッションを通じて、日本と日本人の今について考える。
<b>日本事情 II (外国人留学生科目)</b> さまざまな読みものを読むことを中心に、新聞、DVDなどの副教材も活用して、現在の日本と日本人について、より豊富な知識を身につけていく。また、発表やディスカッションを通じて、日本と日本人の今について考える。	<b>日本事情 III (外国人留学生科目)</b> さまざまな読みものを読むことを中心に、新聞、DVDなどの副教材も活用して、現在の日本の社会と経済についての知識を身につける。また、発表やディスカッションを通じて、日本の社会や経済への理解を深める。	<b>日本事情 IV (外国人留学生科目)</b> さまざまな読みものを読むことを中心に、新聞、DVDなどの副教材も活用して、現在の日本の社会と経済について、さらに豊富な知識を身につける。また、発表やディスカッションを通じて、その理解を一層深いものにしていく。
<b>日本文化演習 I</b> 日本の文化への理解を深めるため、まず授業で歴史的建造物、史跡、民俗行事、習慣、料理などに関する文章を読み合わせし、次にこれら建造物や行事の見学や、料理等の体験を行う。	<b>日本文化演習 II</b> 日本の文化への理解を深めるため、まず授業で歴史的建造物、史跡、民俗行事、習慣に関する文章 (I よりやや高度な文献) を読み合わせし、次にこれら建造物や行事を実際に見学する。	

### (3) キャリア教育科目群

- ▼ 自律型キャリアの育成   ▼ 産学公連携教育   ▼ キャリア構築支援

#### 自律型キャリアの育成

<b>キャリア開発基礎講座</b> 数学の基礎や国語の基礎に関する学修を通した「基礎学力の向上」と、グループワークを通して「チームで成果を出すためのマインドセットを理解すること」を目的とする。具体的には基礎的な公務員試験問題を題材として、授業に取り組んでいく。	<b>キャリア開発演習 I</b> 受講生が自身の大学生活を方向付ける「自律的な大学生活づくり」をテーマとする。キャリアに関する基本的な理論を理解しつつ、充実した大学生活を送る先輩の姿に学び、自身の大学生活をどのようなものにしていくかを言語化する。自ら挑戦し、挑戦を通じて自らを変えていく心的態度を持った自律的な学習者になることをめざす。	<b>キャリア開発演習 II</b> 受講生が自らの将来像を具体化することができる「自律的な将来像づくり」をテーマとする。仕事(業界・業種・職種等)と働き方の多様性を知ると同時に、世の中で活躍する社会人がどのように自身のキャリアを構築してきたかを事例として学ぶことを通じて、自身のキャリア観を具体化し、大学生活の過ごし方を再考する。
<b>キャリア開発演習 III</b> 受講生がインターンシップをはじめとするこれまでの経験から自身の特徴を描き出す「自律的な自分像づくり」をテーマとする。これまでの大学生活を振り返って、自身が学んできたこと、できるようになったことを言語化し、自身の強みや弱み、将来の方向性について再考する。	<b>キャリア開発演習 IV</b> 受講生自身が納得できる進路決定ができるよう「自律的な就職活動づくり」をテーマとする。就職活動に挑戦していくなかで、自身の将来像や特徴の言語化を円滑に行えるようにする。具体的には、就職活動計画の立案、エントリーシート作成や面接対策を行い、自らの就職活動をマネジメントしていく力を養う。	

#### インターンシップ I

キャリア意識醸成、業種・仕事理解の促進および、コミュニケーション能力、計画・実行力等の汎用的能力育成を主な目的とする。事前研修として、個人目標設定、ビジネスマナー・コミュニケーション研修、業界・業種研修などを実施した後、各事業所にて、40時間以上の就業体験を行う。事後研修では、経験の振り返りののち、必要な講習を実施のうえ、報告書の作成やプレゼンテーションを行う。

#### インターンシップ II

キャリア意識醸成や汎用的能力の獲得に加え、学部学びに関連する専門的職業・職種の理解や専門能力の深化を目的とする。事前学習では、個人目標設定やビジネスマナー・コミュニケーション研修に加え、学部学びに深く関連する業界・職種についての調査を行う。その後、各事業所にて、学部学びに関連した40時間以上の就業体験を行う。事後研修では、経験の振り返りののち、必要な講習を実施のうえ、報告書の作成やプレゼンテーションを行う。

#### 海外インターンシップ

国際理解、キャリア意識醸成およびコミュニケーション能力、計画・実行力等の汎用的能力獲得を主な目的とする。事前学習で個人目標設置や海外での生活・就業に向けて必要な研修を実施した後、海外に滞在し、1週間程度の語学研修および3週間程度の就業体験を行う。帰国後には、海外での滞在、就業経験を踏まえ、事後学習会や報告発表会でのプレゼンテーションなどを実施する。

#### クロスオーバー型課題解決プロジェクト

キャリア意識醸成やコミュニケーション能力、計画・実行力等の汎用的能力育成に加え、学部学びに関連する専門能力の深化を目的とする。学部・学年を越えた学生が専門性を共有し、企業等からの課題に取り組む。授業では、社会人として必要な基礎知識や能力を身につける研修や、企業等・業界研究を行った後、企業等から提示された課題にチームで取り組み、プレゼンテーションを行う。

#### ワークエクスペリエンス

キャリア意識醸成、業種・仕事理解の促進および、コミュニケーション能力、計画・実行力等の汎用的能力育成を主な目的とする。前半では、個人目標設定、ビジネスマナー・コミュニケーション研修、業界・業種研修などを実施する。後半では、必要な研修を実施のうえ、企業研究書や報告書の作成やプレゼンテーションなどを行う。履修中には、企業などが独自に募集を行うインターンシップなどへの参加を推奨する。また、必要に応じてキャリアセンター訪問を指導する。

### 教職入門

教育とは何か、学校とは何か、教科指導の在り方、教員の果たす役割とその意義はどこにあるかを、教員の体験や視聴覚資料から学ぶ。また、学級活動や総合的な学習の時間や特別の教科である道徳科など、最近の教育動向について学ぶ。最後に学校教育を支える教育行政の役割を中心に、教員の研修と服務について学ぶ。

### 教育原論

教育とは何か、何をもちて教育(制度)と呼ぶのか等、まず教育に関する基本的な概念の検討を行う。続いて、西欧諸国における教育思想の発展および近代学校制度の成立と発展について、そして明治期以降のわが国における教育制度の発展について概説し、教育史に関する基本的な事項の理解をめざす。最後にまとめとして、現代日本の教育課題について総合的な観点から考察を行う。

### 教育心理学

子どもの指導、援助に関わるうえで必要な発達や学習、パーソナリティーなどの教育心理学の知識について学び、具体的な指導場面に即した教育心理学の知識や考え方、技術の習得をめざして授業を行う。対象である子どもの発達の特徴を絶えず念頭において、指導や援助の問題を考える。

### 特別支援教育論

特別支援教育の制度と対象を理解する。また、教育の場や形態の違い（通常の学級、通級による指導、特別支援学級、特別支援学校）によって教育課程や教育方法が異なることを知り、適切な支援を継続的に提供するために、一人ひとりのニーズに即した個別の指導計画や個別の教育支援計画が果たす役割を理解する。さらに、異なる学校間や関係機関との連携を実現するための仕組みについて考える。

### 総合的な学習の時間の指導法

中学校・高等学校における総合的な学習の時間の実施にあたって、その全体的な計画の立案、年間指導計画の立案、単元計画の立案、その実施、実施後の評価等のあり方について学ぶ。それらに基づいて、実際に総合的な学習の時間の授業の計画立案の具体例についても学ぶことを通じて総合的な学習の指導法について力量を獲得していく。

### 教育相談

教育相談は、「児童生徒それぞれの発達に即して、好ましい人間関係を育て、生活によく適応させ、自己理解を深めさせ、人格の成長への援助を図るもの」とされている。この科目では、教育相談に必要な知識について学ぶとともに、教師に求められるカウンセリングマインドの実践力を身につけることを目標とし、中等教育の現場で出会う生徒の問題についてよく知り、生徒とその保護者への支援のありかたについて考えを深め、実践力を身につけていく。

### 教育制度論

現代の学校教育に関する制度的事項について、基礎的な知識を身につけるとともに、それらに関連する課題を理解する。教育制度は、教育に関する法規に基づき成立し、その背景の思想が制度を歴史的・社会的に成立させる。日本における教育制度の変遷を学習するとともに、それらを構成する制度の仕組みの展開や問題を検討する。また、学校と地域との連携に関する理解および学校安全への対応に関する基礎的知識も学習する。

### 教育課程論

教育課程の意義、果たす役割、および、教育課程に関わる基本的な概念について理解し、教育課程編成、授業づくりに関わる基礎的知識を身につけるとともに、授業づくりやカリキュラム・マネジメントのために必要な力量の基礎を養う。

### 道徳教育の理論と方法

学校教育を通して、自然と社会性と道徳性をどう身につけていくのかという課題に対して、歴史および理論的な視点から考察する。さらにそうした考察・探求を、具体的な道徳教育（授業）の実践例の分析を通じて深めていく。終盤は道徳授業の構想づくりから授業プランづくりまでできる力量を習得できるように実践的な授業になる。

### 特別活動論

特別活動の意義や役割を理解し、その内容の具体的な活動事例（学級活動の指導、行事に関わる指導、安全指導等）を通して生徒の自主的、自律的な態度を育成する指導のあり方を学ぶ。講義のほかレポート作成、小集団討議を取り入れ、将来学校現場において役立つような具体的に・実践的な内容とする。

### 教育方法論

80年代以降の日本の教育実践のなかから典型的な授業と教材を選び、受講生に可能な限り追体験してもらいながら、教育方法学の蓄積してきたカテゴリーシステムを活用して学習者が主体的・対話的で深い学びができる授業の要件を理解させる。

### 生徒・進路指導

生徒指導の意義と必要性、生徒指導の領域と内容、生徒指導の組織と計画など概念上の理解を深めたいうで、生徒指導の今日的課題に気づき学校現場での具体的な生徒指導事例を分析できることをめざす。また、キャリア教育の理念やキャリア発達の指標を理解したうで、中等教育段階でのキャリア教育のあり方を学ぶ。

### 教育実習指導

教育実習は、大学での教職科目および専門科目等で身につけた教育に対する知見を、実際の教育現場で実証する意義ある機会である。授業実践のみならず生徒への影響の重大さを認識し、教育実習に対する基本的な心構えや技能を身につけ、実習後の反省と総括から、今後に向けての展望がもてるようにする。

### 教職実践演習（中等）

4年間の学びをまとめ、大学での学習と教育現場での体験を振り返る。具体的な振り返りの視点は、次の5点である。(1) 子ども理解（①子どもの発達、②子どもを取り巻く社会と環境）、(2) 各教科の指導、(3) 実践的な知識と技能（①学級経営、②生徒指導）、(4) コミュニケーション（①学校における個人の役割、②地域・保護者との関係）、(5) 教育的愛情。以上の視点に基づいて、4年間の学びを振り返り、到達状況を確認し、そのうえで、必要な知識と技能について補完する。そして、今後、どのような知識と技能を習得することが必要なかを明確にする。

### 教育実習 I

中学校・高等学校における教育実習。学校現場での実習を通して、学校教育についての正しい理解を深め、教員の役割や指導についての適切な認識と技術を身につけ、教員としての人間性を高めることをめざす。そのために、以下の点を目指とする。①実習校での学校づくりの内容を具体的に知り、そこにこめた願いをつかむこと、②大学で学んでいることがらを、教育現場の具体的な取り組みを通して検討し、さらに深めること、③教員として、社会人として自らを成長させていくうえでの課題をつかむこと。

### 教育実習 II

### 学校等体験活動

### 体育理論

中学校・高等学校における教育実習。学校現場での実習を通して、学校教育についての正しい理解を深め、教員の役割や指導についての適切な認識と技術を身につけ、教員としての人間性を高めることをめざす。そのため教育実習Ⅰと同様に、以下の点を目標として実習に取り組む。①実習校での学校づくりの内容を具体的に知り、そこにこめた願いをつかむこと、②大学で学んでいることから、教育現場の具体的な取り組みを通して検討し、さらに深めること、③教員として、社会人として自らを成長させていくうえでの課題をつかむこと。

#### 福祉とボランティア

社会学の一分野としての社会福祉とその歴史を学習してから、住民参加やボランティアの諸形態とその意義・限界を理解する。社会学の一分野としての「福祉」と「ボランティア」について、基本的な考え方や知識を学び、福祉制度への理解を深めるなかで、一人ひとりがどのように共生社会づくりに関われるかを考える。また、教育の基本である「人間の尊厳」への気づきと理解を深める。

#### 社会科教育法Ⅱ

教育実習での研究授業を念頭において、①「学習指導案（細案）」を作成することができる。②授業実践の模擬体験を通して、授業技術の基礎を身につける。③授業実践および相互批評を行うことを通して、授業研究や授業改善の方法を知ることが目的とする。前半は、社会科の教科書研究、教材教具づくり、授業方法、学習指導案について概略を学ぶ。後半は小集団または個人によって教材を開発し、学習指導案を作成し、模擬授業実践から相互批評を行い、授業力向上のための授業研究方法までを学ぶ。

#### 公民科教育法Ⅰ

多様化する現代社会について理解を深め、民主的で平和的な国家・社会の有為な形成者として必要な公民としての資質を養うために、高校公民科教育の意義や内容についての理解を深める。特に、高校での公民科の授業を体験することで、カリキュラム作成、教材開発、授業評価の実際を学ぶ。

#### 読書と豊かな人間性

子どもが読書することの意義、子どもに読書を薦める意義について自分なりの考えを持つ。また、学校図書館における読書教育の方策についての知識と理解を獲得する。子どもを本好きにするために何ができるか、読書教育と環境について考えることを目標とする。子どもの読書の意義について理解を深め、読書資料をジャンルごとに解説し、子どもを本好きにするためのさまざまな技術や方法についても学ぶ。

#### 学習指導と学校図書館

前半は、学校等体験活動について概略を学ぶ。その際、学校と教育をめぐる諸課題について討議し、学校への理解を深める。後半は、学校等体験活動経験を総括し、発表や互いに交流するなかで、その後の大学での学修課題を明確化する。

#### 人権と教育

今日、同和問題、子どもや女性、障害者問題など、多様な人権問題が指摘されているが、相互の関係性も含めてそもそも人権問題とは何か、その基本的認識についての理解をはかり、これからの人権教育のあり方について考える。

#### 社会科教育法Ⅲ

中学校の社会科の歴史とすぐれた社会科実践の分析を行うなかで、教材づくりの視点と方法を学ぶ。個人または小集団学習を取り入れ、主体的に対話的な深い学びの実現のために、さまざまな授業方法や体験活動、ICT機器の活用ができるようになる。

#### 公民科教育法Ⅱ

模擬授業づくりを通して、教材開発の手法とカリキュラムデザインの実際を学ぶ。「現代社会」「政治経済」「倫理」のなかから模擬授業を行い、授業後、授業研究を行う。

#### 情報メディアの活用

メディア教育の在り方への考察を深めるとともに、学校図書館メディアの特性を理解し、学校図書館活動において各種メディアを活用するうえで必要な知識とスキルを身につけることを目標とする。現代社会におけるさまざまなメディアの特性を理解し、学校教育への活用について確認する。メディアの利用に関わる情報活用能力・メディアリテラシーや著作権の問題についても考える。

#### 教職・保育職教養講義Ⅰ

体育科教育の概要とスポーツ文化の継承・発展を考えるため、体育科教育の概要を理解するとともに、体育やスポーツについて、文化的、社会的、歴史的側面の理解を深める。これらを踏まえ、体育やスポーツについて理解する力、仲間とともに考える力、創造する力を身につけることを目標とする。授業では、近代スポーツの成立と変遷を、文化的・社会的背景を視野に入れて講義する。

#### 社会科教育法Ⅰ

中学校社会科の歴史、目標、内容、方法を学び、授業プランづくり、模擬授業を通じて社会科教育への基本的な理解を深める。社会科について戦後社会科の誕生（前史を含む）から現在までの歴史、学習指導要領の変遷、社会科教育実践のあゆみ、中学校教科書論、教材論、授業論を深める。

#### 社会科教育法Ⅳ

中学校の社会科の地理分野を中心に、中学校学習指導要領（地理的分野の目標、内容）、中学校の地理的分野の教科書構成を検討し、学問領域との関係を理解するとともに、生徒の興味・関心を引き出しながら、発展的な学習内容を意識しつつ、地理的な見方や考え方を培うための地理的分野の教材開発と授業づくりの方法を学ぶ。

#### 学校図書館メディアの構成

学校図書館メディアの構成に関する理解および実務能力の育成と、学校図書館メディアの専門職である司書教諭としての基本的な知識を獲得することを目標とする。まず、高度情報社会における学習環境の変化に伴うメディアの教育的意義と役割について論じ、同時に各種メディアの種別と特性について説明し、理解を図る。次に、より優れたメディアの構築について、さらにメディアの組織化の意義と展開について講義する。

#### 学校経営と学校図書館

本科目が学校図書館司書教諭課程全体の総論的な位置づけであることを踏まえ、まず学校教育における学校図書館の果たす役割等、学校図書館全般について論じ、基本的理解を図る。次に、学校図書館経営の責任者としての司書教諭の任務と職務を明確にし、校内の協力的体制づくり、司書教諭としての研修の重要性にふれる。さらに、学校図書館メディア・学校図書館活動・他の館種を含めた図書館ネットワーク等についての基本的理解を図る。

#### 教職・保育職教養講義Ⅱ

学習指導の基盤となる教育の理論を理解したうえで、学校図書館メディアの活用方法を実践例を見ながら考察する。教科学習における担当教諭と司書教諭のコラボレーション、学習情報センターとしての学校図書館利用指導などについて事例を研究し、実際に自分で指導計画を作成する。情報リテラシー育成の一端を担う学校図書館活用の理論と実践のつながりを理解する。

これからの教職を志す者は、今日の学校教育における、具体的な課題を主体的に考察し、認識を深める資質・能力を身につける必要がある。そのために、この科目では、現在の学校教育をめぐる基本的課題を取り上げ、多角的・複眼的に考察し、学校教育の現状についての認識・理解を深め、実践的な課題克服の方途を主体的に考える力を身につける。

これからの教職を志す者は、教員採用試験のために、学習指導要領の改善点を単に暗記するだけではなく、改訂の趣旨および背景(例えば、教育基本法の改正、学校教育法の改正など)も含めて理解し、教師としての実践力として身につけることが大切である。また、将来教師として採用された後も、学習指導要領をはじめ、国レベルで出される答申や通知、報告等を歴史的視点で継続的に理解し、時代の変化に対応できる資質・能力を身につけることを目標とする。

### 教職・保育職教養講義 III

中央教育審議会答申は、教育の専門家としての確かな力量として具体的に「子ども理解力」「児童・生徒指導力」「集団指導の力」「学級づくりの力」「学習指導・授業づくりの力」「教材解釈の力」などを掲げている。この科目では、これらの知識や技能を身につけることはもちろんのこと、これらに加えて客観的論理に基づいた自己の考え方や、その論理から導き出された具体的な教育実践について、発信できる資質や能力を身につけることを目標とする。

### 教職・保育職教養講義 IV

学校の教育活動は、PDCAという教育サイクルがスパイラルに繰り返されながら、生徒のよりよい成長を願った指導が展開される。授業は、生徒の実態を踏まえ、学習指導要領に示される基本方針や授業時間数、各教科等の目標・内容等を計画的に実施されることについて理解する。また、各教科等の内容・目標および教科等の系統性を理解し、学習指導案作成の基礎を身につける。一方、教育評価の結果によって今後の指導を改善し、さらに新しい指導の成果を再度評価するという、指導に生かす教育評価の基礎的・基本的な知識・技能を身につける。

### 生涯学習概論 I

生涯学習および社会教育の本質について理解をはかる。生涯学習という考え方が現代社会に生まれるにいたった経過を理解し、法制や施設などその具体的内容を知ること目標とする。わが国における生涯学習・社会教育の歴史的特質の理解を基礎に、社会教育・生涯学習の法制と行政、施設論、地域住民の諸階層の生活課題と学習課題、学校教育、福祉と連携協力などの課題について学び、学習活動への支援などについての理解に関する基礎的能力を身につける。

### 生涯学習概論 II

生涯学習を世界的視野からとらえ、共通する現代的課題の国際的動向を把握する。具体的には、ハンブルク宣言、イギリスやドイツの大学と生涯学習、アジア諸国、特に中国・韓国の生涯学習などについて学ぶ。

### 図書館概論

司書課程の導入科目として、わが国の公立図書館を中心に学校図書館、大学図書館、国立国会図書館、専門図書館等の制度、機能、現状や課題を理解する。図書館の機能や社会における意義や役割について理解を図り、図書館の歴史と現状、館種別図書館と利用者ニーズ、図書館職員の役割と資格、類縁機関との関係、今後の課題と展望等の基本について学ぶ。

### 図書館情報技術論

図書館現場に即した実践的な知識・技術を身につけることを目標とする。情報技術と図書館サービスをテーマに、図書館業務における情報機器・情報技術の機能や利用、電子資料・デジタル情報源等について解説する。図書館業務に必要な基礎的な情報技術への理解を深め、情報の流通・管理等に関する知識の修得を図る。

### 図書館サービス概論

「図書館サービスとは何か」を、さまざまな館種における現実の図書館サービスに根ざしながら、実証的に理解することをめざす。館種ごとの図書館サービスを知り、その基盤となる考え方や、図書館機能とその構造を理解することを図る。具体的には、閲覧、資料提供、情報提供、予約、リクエスト、読書案内、レファレンス、問題解決支援などの働き、さらに児童・ヤングサービス、障害者、高齢者、多文化サービスなど、各種のサービスを扱い、それに関わる著作権や接遇の基本について学ぶ。

### 図書館情報資源概論

本科目では、伝統的な印刷メディアと先端的な電子メディアを紹介しながら、市民の要求に応じてどのように蔵書を形成し、提供するかを知る。また、出版流通に関する基礎的知識と電子メディアの動向、資料の受入方法・蔵書管理の在り方についての知識を修得する。印刷資料・非印刷資料・電子資料とネットワーク情報資源からなる図書館情報資源について、類型と特質、歴史、生産、流通、選択、収集、保存、図書館業務に必要な情報資源に関する知識等の基本について学ぶ。

### 情報資源組織論

図書館における情報資源の組織化について、その意義・目的・方法を学ぶ。印刷資料・非印刷資料・電子資料とネットワーク情報資源からなる図書館情報資源の組織化の理論と技術について、書誌コントロール、書誌記述法、主題分析、メタデータ、書誌データの活用法等について学ぶ。

### 図書館制度・経営論

図書館の制度と図書館経営の意義と課題を併せて、最近の動向を理解する。図書館に関する法律、関連する領域の法律、図書館政策について解説するとともに、図書館経営の考え方、職員や施設等の経営資源、サービス計画、予算の確保、調査と評価、管理形態等について学ぶ。

### 情報サービス論

図書館における「情報サービス」とは何か、その意義や利用者のニーズへの理解、情報サービスを支える情報源の種類や評価などについて理解することを目標とする。図書館における情報サービスの意義を明らかにし、レファレンスサービス、情報検索サービス等のサービス方法、参考図書・データベース等の情報源、図書館利用教育、発信型情報サービス等の新しいサービスについて学ぶ。

### 児童サービス論

公共図書館や学校図書館における児童サービスの意義を理解し、児童・生徒を「本好き」にするための方策について知識を深め、その技術を理解することをめざす。児童(乳幼児からヤングアダルトまで)を対象に、発達と学習における読書の役割、年齢層別サービス、絵本・物語等の資料、読み聞かせやブックトークなどの技術、学校や地域との協力等について学ぶ。

### 情報サービス演習 I

情報サービスの設計から評価に至る各種の業務、特にレファレンスサービスにおける情報資

### 情報サービス演習 II

メディアの多様化、情報通信手段の発展により情報探索法も多様化している。大量・多様な情

### 情報資源組織演習 I

情報資源組織業務について実践的な能力を演習形式で身につける。主に単行資料書誌データを

源の選択を中心に、積極的な発信型情報サービス（パスファインダーの作成）などの演習を行い、情報サービスを実践できる能力を身につける。

報のなかから要求に応じた情報を探し出すには、情報検索の基礎的な知識を基盤に、情報要求を正確に把握して、適切な情報源を選択し的確な検索戦略を立て実行する実践力が必要とされる。この科目では、情報検索の基礎的理論についての理解を深めるとともに、実際の質問例に対する回答処理を演習して、主としてデジタル情報源を用いた情報探索の技術・実践的能力を身につける。

作成することにより、継続資料や電子資料等多様な情報資源の書誌データを作成する能力を養い、集中化・共同化による書誌データの作成や、ネットワーク情報資源のメタデータの作成も実践する。

### 情報資源組織演習 II

多様な情報資源に関する書誌データの作成、主題分析、分類作業、統制語彙の適用、メタデータの作成等の演習を通して、情報資源組織業務について実践的な能力を身につける。この科目では、上記のうち、主題分析、分類作業、統制語彙の適用の演習を行う。

### 図書館情報資源特論

必修の各科目で学んだ内容を発展的に学習し、理解を深める観点から、基礎科目に関する領域の課題を選択し、授業を行う。ここでは「児童サービス論」をテーマとする。図書館における児童サービスのあり方について、一人ひとりの発達の違いや好奇心に対応したさまざまな内容や分野が児童資料にあることを学び、数多くの児童書（絵本、児童文学、科学読物等）リストから、実際に「読むこと」を通して、「児童サービス論」の内容を深める。

### 図書館施設論

**概要：**図書館活動・サービスが展開される場としての図書館施設について、地域計画、建築計画、その構成要素等について学ぶ。代表的かつ具体的な複数の事例について知り、具体的な施設の実地見学を通じて、さまざまな角度から図書館建築に関する知識を修得する。

（オムニバス方式／全7回）

### 図書館実習

図書館に関する科目で得た知識・技術を元にして図書館現場で実習することを通じて、仕事をより深く理解し、今日の図書館が抱える課題についても問題意識を深める。事前・事後学習の指導を受けつつ、公立図書館業務を経験する。実習は公立図書館で5日間（40時間）を基本とする。

### 博物館学概論

博物館学の目的・方法・構成、博物館の定義等（定義・種類・目的・機能）、博物館の歴史と現状（内外の博物館の歴史・現状）、学芸員の役割（定義、役割、実態）、博物館関係法令等、博物館に関する基礎的な知識を理解し、専門性の基礎となる能力を身につける。

### 博物館教育論

博物館教育の意義、博物館の利用と学び、博物館教育の実際等、博物館における教育活動の基盤となる理論や実践に関する知識と方法を習得し、博物館の教育機能に関する基礎的能力を身につける。

### 博物館情報・メディア論

博物館における情報の意義と活用方法および情報発信の課題等について理解し、博物館の情報の提供と活用等に関する基礎的能力を身につける。

### 博物館資料論

博物館資料の収集、整理保管等に関する理論や方法に関する知識・技術を習得し、また博物館の調査研究活動について理解することを通じて、博物館資料に関する基礎的能力を身につける。

### 博物館経営論

博物館の経営基盤、博物館の経営、博物館における連携のありかたを学ぶことを通じて、博物館の形態面と活動面における適切な管理・運営について理解し、博物館経営（ミュージアムマネジメント）に関する基礎的能力を身につける。

### 博物館展示論

展示の歴史、展示メディア、展示による教育活動、展示の諸形態等に関する理論および方法に関する知識・技術を習得し、展示機能に関する基礎的能力を身につける。

### 博物館資料保存論

**概要：**博物館における資料保存およびその保存・展示環境および収蔵環境を科学的に捉え、資料を良好な状態で保存していくための知識を習得することを通じて、資料の保存に関する基礎的能力を養うことを目標とする。博物館等に所蔵の文化財資料について、その保存に関する科学的手法を学ぶとともに、実際の博物館における実態を学ぶことで文化財保存とその環境、博物館の役割について学ぶ。

（オムニバス方式／全14回）

### 博物館実習 I

考古資料の実測図や古文書の取り扱いを学ぶことを通じて、博物館における資料保存及びその保存・展示環境及び収蔵環境を科学的に捉え、資料を良好な状態で保存していくための知識を習得する。

### 博物館実習 II

**概要：**資料台帳カード作成と展示・体験学習のプランニングを行う。さらに、これらの作業を通して博物館業務の多様性を理解する。既存の博物館の資料台帳カード、要覧、図録、ホームページなどを参考に作業を進める。また、博物館における美術工芸品の取り扱い方法と調査方法を中心に講義を進め、学芸員に求められる知識と技術の習得をめざす。

（オムニバス方式／全14回）

### 博物館実習 III

博物館学芸員としての自覚と共通の基礎的技術を身につける。特にどのような博物館においても、二次資料としての写真、レプリカ、出版物（編集物）などは日常的に用いられるものであるため、それらの基本的な知識を学ぶとともに、小さな展示会を通じて実際の制作を行うことで、理解を深めることを目標とする。また、博物館の現場における実務を経験すること（館

### 生涯学習支援論 I

学習者の多様な特性に応じた学習支援に関する知識および技術の習得をめざし、学習支援に関する教育理論、効果的な学習支援方法について学ぶ。

	<p>圖実習)によって、博物館への理解をより一層深める。</p>	
<p><b>生涯学習支援論 II</b></p> <p>学習者の多様な特性に応じた学習支援に関する知識および技術の習得をめざし、学習プログラムの編成、参加型学習の実際とファシリテーション技法等について学ぶ。</p>	<p><b>社会教育経営論 I</b></p> <p>多様な主体と連携・協働を図りながら、学習成果を地域課題解決や地域学校協働活動等につなげていくための知識および技術の習得をめざす。社会教育行政と地域活性化、社会教育行政の経営戦略、学習課題の把握と広報戦略、社会教育における地域人材の育成等について学ぶ。</p>	<p><b>社会教育経営論 II</b></p> <p>多様な主体と連携・協働を図りながら、学習成果を地域課題解決や地域学校協働活動等につなげていくための知識および技術の習得をめざす。学習成果の評価と活用の実際、社会教育を推進する地域ネットワークの形成、社会教育施設の経営戦略等について学ぶ。</p>
<p><b>社会教育演習</b></p> <p>社会教育主事の職務を遂行するために必要な資質および能力の総合的かつ実践的な定着をめざす。具体的な地域課題等を題材とした社会教育事業について、さまざまな学習方法を用いた内容で企画・立案し、模擬実践を通じて、コーディネート能力、プレゼンテーション能力等の基礎の習得をめざす。</p>	<p><b>社会教育課題研究</b></p> <p>社会教育は、地域を基盤に展開されてきた。人々の学習は、取り巻く社会との関係を抜きに語ることはできない。社会の変化が学習に影響し、人々は学習を通して社会とつながるといえる。この授業では、社会教育計画策定の前提として、地域に根ざす学びとはどのようなものか検討する。そのためには、現在の社会教育をめぐる状況だけでなく、日本の社会教育の歴史についても理解を深める。受講生には、対象地域の教育計画や社会教育施設等における具体的事例を調べて、発表してもらう予定である。</p>	<p><b>社会教育実習</b></p> <p>社会教育・生涯学習の現場における経験を通して、地域における人々の学び合いの展開とそれを支える職員・学習支援者の役割について理解を深めるとともに、社会教育主事の職務遂行に求められる実践的な能力を身につけることをめざす。</p>
<p><b>日本語教授法 I</b></p> <p>日本語教育を理解するうえで必要な基礎知識を身につけることを目標とする。日本語教育の現状、日本語教育の歴史、外国語教授法、日本語教育の内容、言語の習得に関する内容を主に扱う。授業で扱う内容によっては、課題発表を行うこともある。</p>	<p><b>日本語教授法 II</b></p> <p>日本語教育の現場で必要となる、基礎知識を身につけることを目標とする。コースデザイン、ニーズ分析、カリキュラムデザイン、教材の種類、特徴および構成、日本語指導の方法、指導内容、評価法、異文化理解と日本事情などを主に扱う。授業の内容によっては、課題発表を行うこともある。</p>	<p><b>日本語教授法 III</b></p> <p>「日本語教授法 I」「日本語教授法 II」において学んだ日本語教育の基礎技術を応用し、英語などの媒介語を使用しない直接法で初級レベルの授業が行えるようになることを目標とする。初級レベル（主に初級前期）の授業を想定し、実際に指導するための基礎的な技術を学ぶ。</p>
<p><b>日本語教授法 IV</b></p> <p>これまで学んだ日本語教育の基礎技術を応用し、初級後期・初中級レベルの授業が行えるようになることを目標とする。初級レベル（主に初級後期）の授業を想定し、実際に指導するための基礎的な技術を学ぶ。</p>	<p><b>日本語教材研究</b></p> <p>日本語教育の様々な教材を分析し、学習レベルや学習目的による教材の特徴や違いを学ぶ。初級教材、中上級教材を分析し、初級と中上級との相違点や扱われる内容の違いを理解する。年代の異なる教材を分析し、年代による変化をつかむ。</p>	<p><b>日本語教育実習</b></p> <p>日本語教育の学習には、実際に生徒を教える経験が必要となる。留学生を相手にした日本国内での実習のほか、海外の協定大学等での実習を行う場合もある。実習の前後には、事前、事後学習を行う。</p>
<p><b>日本史概説 I</b></p> <p>中世以前の日本史について、より深く、かつ多面的な理解を獲得する。原始時代から戦国時代まで、日本史の流れを概観しつつ、各時代ごとに政治・社会・文化などさまざまな分野のトピックを取り上げていく。また、近年の研究動向についても、できるだけ言及し、歴史イメージを相対化する視点を提供していく。</p>	<p><b>日本史概説 II</b></p> <p>政治・社会・経済・文化などさまざまな角度から、中近世を中心に日本の歴史を概観する。時間の流れを追いながら、歴史上の事象について具体的に紹介するなかで、日本史の基礎的な知識を確認し、歴史の現れ方、見方を考えていく。</p>	<p><b>東洋史概説 I</b></p> <p>一次史料を紹介しつつ、先秦時代から明清時代までの中国の歴史を概観する。授業では、各回それぞれの時代に特徴的な人物・集団などを取り上げ、それらを掘り下げながら、その時代の特徴を論じる。</p>
<p><b>西洋史概説 I</b></p> <p>ヨーロッパ・アメリカ世界を扱い、歴史を概観する。主にローマ帝国の崩壊から始めて、カールの戴冠による西欧世界の成立、さらに十字軍時代のヨーロッパ世界の拡大までを概観する。</p>	<p><b>日本語学概説 I</b></p> <p>日本語学の基本的な概念や用語について理解する。特に、「音声・音韻」・「文字・表記」について、それぞれの研究内容や研究方法及び用語について理解し、今後、日本語研究を進めるための基礎的・基本的知識を習得する。</p>	<p><b>日本語学概説 II</b></p> <p>日本語学の基本的な概念や用語について理解する。特に、「語彙」・「文法」・「現代生活と日本語（待遇表現、位相語、文章と文体、他）」について、その研究内容や研究方法及び用語について理解し、今後、日本語研究を進めるための基礎的・基本的知識を習得する。</p>
<p><b>日本文学史 I</b></p> <p>日本の古典文学に対する基礎知識と教養を身につける。諸作品に触れることで、日本古来の</p>	<p><b>日本文学史 II</b></p> <p>日本の近代文学に対する基礎知識と教養を身につける。主要作家・作品についての知識を得</p>	<p><b>日本語学講義 I (日本語文法)</b></p> <p>日本語のさまざまなルールについて概説し、日本語学という学問で考察の対象となっているト</p>

文化に興味を抱き、その豊かさについて学び、時代にそって、日本文学の歴史と表現の特質を学ぶ。文学史の概要を学び、教科書で作品を講読し、さらに周辺作品についても学ぶ。

て、おおよその流れを理解し、日本の近代文学を研究する際の問題意識を養う。小説作品を分析的・批評的に読む読解力を養い、作品についての自分の感想や意見を発表する発信力を養う。

ピックについて考える。授業のなかでグループディスカッションを行い、日本語の法則性を議論し、また、例文を作成する。

#### 日本語学講義 II (日本語文法)

「本当の日本語の姿」を知るためには、コーパスと呼ばれる電子的な言語資料を用いて、数的調査を行うという方法が考えられる。この科目ではコーパスを用いて、表記・語形・コロケーション・よく使われる形などについて研究を行い、それを発表する。

#### 日本語学講義 III (社会言語学)

日本語の変化のなかでもとりわけ、文法の変化の詳細について学ぶ。また、日本各地の諸方言の実態や分布要因について学ぶ。

#### 日本語学講義 IV (日本語史)

日本語史の総説と音韻史および文字史、文法史について学ぶ。古代語に区分される、上代・中古および中世前半（鎌倉時代・南北朝時代）の状況について学び、それぞれの時代の文献や基本的な学説を理解し、どのような手順で、国語の歴史を構築し論考しているかといった方法論を学ぶ。

#### 近現代文学講義 I

小説を分析的に鑑賞・読解するための鑑賞眼や批評意識、他者の鑑賞や理解を柔軟に受け入れる理解力を養う。作品に基づいて、論理的で説得性のある論を組み立てる力、自分の意見や疑問点などを他者に発信する能力を養う。近代文学から名作小説を五作品取り上げ、読解と鑑賞を行い、グループワークとその成果の発表、相互の質疑応答を授業の中心とする。

#### 近現代文学講義 II

小説を分析的に鑑賞・読解するための鑑賞眼や批評意識、他者の鑑賞や理解を柔軟に受け入れる理解力を養う。作品に基づいて、論理的で説得性のある論を組み立てる力、自分の意見や疑問点などを他者に発信する力を養う。明治時代の近代文学作品を通じて、文学作品を読むだけでなく、同時に文学以外の領域にまで視野を広げながら作家の表現の多面的な魅力を味わうことのできる力を身につける。

#### 近現代文学講義 III

小説を分析的に鑑賞・読解するための鑑賞眼や問題意識、他者の鑑賞や読解を柔軟に受け入れる理解力を養う。作品に基づいて、論理的で説得性のある論を組み立てる力、自分の意見や疑問点などを他者に発信する能力を養う。大正から昭和前期にかけて発表された文学作品を教材として、現代の日本人の心性が形成されていくにいたる道筋を確認するという観点から文学作品を読解する。

#### 近現代文学講義 IV

小説を分析的に鑑賞・読解するための鑑賞眼や問題意識、他者の鑑賞や読解を柔軟に受け入れる理解力を養う。作品に基づいて、論理的で説得性のある論を組み立てる力、自分の意見や疑問点などを他者に発信する能力を養う。近現代の文学作品のなかから、テーマを設定し、そのテーマに焦点を当てた作品を取り上げ、読解と鑑賞を行い、グループワークとその成果の発表等を行う。

#### アナウンス技術演習 I

社会で求められる表現力やコミュニケーション力を学ぶ。また、考える、書く、ディスカッション、発表を繰り返し行うことで表現することに習熟する。アナウンス技術（プレゼン力）の向上はもちろんのこと、印象・聴き方・話し方などの基礎を身につける。

#### アナウンス技術演習 II

伝えるではなく、伝える話するために必要な要素を学ぶとともに、自分の意見を効果的に伝えることの重要性を体感する。また、他者の発表をフィードバックすることで、プレゼンに必要なポイントを客観的に学び、さらに、語彙や表現力を豊かにするためのさまざまなトレーニング方法を学ぶなど、総合的なアナウンス力（プレゼン力）を身につける。

#### 多文化コミュニケーション論

多文化コミュニケーションの諸相を理解するために必要な基礎知識を紹介し、とりわけ、日本語によるコミュニケーションと英語によるコミュニケーションとの比較を通して、それぞれのコミュニケーション方法の特徴を学ぶ。その背景にある社会的ルール、考え方、宗教やモラル、文化的価値観、文化的しつけ、言語の社会的側面などをテーマにし、毎回そのテーマに関するトピックをピックアップし、講義とディスカッションを行う。ステレオタイプやcultural biasの観点から、自らと異なる文化において、より客観的に物事を判断できるようになることをめざす。

#### 英語教育論

英語教育に関する理論の到達点を学びつつ、学校英語教育、小学校での英語教育を含む児童英語教育、国際理解教育と英語教育の関連などに焦点をあてて、理論的・実践的探求を行う。学習理論、指導理論、日本における英語教育施策、母語習得と第二言語習得との比較などについてもとりあげて、日本における英語教育全般についての理解を深める手助けをする。

#### English Language Literatures

英語圏文学は世界の文学のなかで大きな位置を占めてきた。この科目では、イギリス文学を中心に、基礎知識を身につけるとともに、外国の文学を楽しめる技術を身につけることを目標にする。歴史的な変化を概観しつつ、中世から現代までの英語圏の代表的な作家を幅広く取りあげ、その作品を原文で読んで、そのおもしろさを味わいながら、文学の側面から英語圏文化に迫る。授業は、学生の朗読、群読、歌、演出、発表によるactive learningを取り入れ、詩、演劇、小説、自伝、日記、映画シナリオなど、さまざまなジャンルを教材にする。

#### Foundation Translation

現在のグローバル社会において、翻訳の「必要性」ならびに「役割」を考え、翻訳にあたって必要となるさまざまな知識や戦略を学習する。とりわけ、文法規則に添った戦略だけではなく、Newmarkが示すような「内容問題別」戦略を紹介し、異文化接触の最前線としての翻訳実践をしていく。英日翻訳に必要な理論や基礎技術を学習し、さまざまな種類の英文の翻訳を行う。直訳ではなく、文化背景や作者の意図を

#### World Englishes

グローバル化時代のリンガ・フランカ (lingua franca) とも言われる英語は、英語圏の文化的背景をもちつつも、アジア、アフリカなど地球上のさまざまな場所における使用においては、使用する人々のアイデンティティを反映したものとなっていて、さまざまな変種 (varieties) が見られ、まさに、世界の諸英語 (World Englishes) と呼ぶにふさわしい様相を呈している。この科目では、世界の英語の現実の姿を

#### Japanese-English Comparative Literatures

まず、日本の古典と英語の古典についてどのような作品類が残っているのかを知り、それらの美意識や詩学などの違いについて比較する。その後、全く接点のないなかで同じ時代に活躍した劇作家である近松とシェークスピアの作品を通して、とりわけ「悲劇」という概念について考える。最後に、近代における小説、詩、演劇を比較し、その違いおよびお互いの影響につい

汲み取り、英文から日本語とその逆へ再構築しながらの翻訳をめざす。また、現在無視できなくなっているmachine translation（機械による自動翻訳）を紹介し、今後の「翻訳家」と急速に進む機械翻訳の技術の問題も考える。

見ていきながら、英語の過去から現在、未来までを考えてみたい。さらに、グローバル化時代の英語の役割とグローバルコミュニケーションにおいて求められる英語能力について再検討していく。

て追及する。日英翻訳を通して作品の比較を行う。

## 英語学

国際的なコミュニケーションの手段として広く用いられ、地球語ともよばれる英語とはどのような言語かという問題を、さまざまな観点から考察し、英語学の基本的な知識を身につけ、英語という言語について理解を深めることを目的とする。具体的には、英語発音の仕組み、語・文の構造、語・文の意味、英語語用論などを扱う。また、英語の歴史を振り返り、さらに、社会的・地理的変種における発音・語彙の違い、さまざまな談話領域における文体の相違なども検討する。

## 医療概論

本科目では、診療情報管理士をはじめとする医療管理者として医療機関で働くために必要な、医学と医療の基礎的な知識を修得することをめざす。そのためにまず、医療と医学に関する歴史の変遷をたどりつつ、現代の医療に至る過程と現状を理解する。また、医療倫理や医療・社会保障制度など、医療を成立させている社会的な仕組みを学ぶとともに、病気とは何か、病気の原因、病態、診断、治療、予防など医学の基礎的な内容を理解していく。

## 解剖生理学

人体の基本的な仕組みと働きを知ることは、診療情報管理士として診療記録に記載される内容を理解するうえで、必要不可欠の知識である。また、さまざまな疾病の機序や病態、それらの治療方法などを理解するうえでも、人体の構造と機能を理解することは、非常に重要である。そこで、本科目では、人体の機能と仕組みのうち、特に人の細胞と組織、および器官ごとの機能と構造を学習するとともに、後半では筋骨格系の疾患について学ぶ。

## 診療情報管理論 I

本科目では、まず、診療情報管理とは何か、診療情報管理と診療情報管理士の関わり、医療機関において診療情報管理士が担う役割など、診療情報管理と診療情報管理士について基礎的な知識を習得し、理解を深めることをめざす。また、診療情報管理業務を行ううえで必要なコンプライアンス（法令遵守）について、特に診療情報管理士に必要とされる診療記録および診療情報に関わる法規を中心に具体的な事例なども交えて学習を進め、理解を深める。

## 診療情報管理論 II

診療情報管理士が担う業務は、病院の規模や配属される部門により、実務内容においては異なることが少なくない。そこで本科目では、診療情報管理を円滑に行うために必要な、診療情報管理の基本的な業務内容と実務を事例を交えて学習する。具体的には、診療記録の保管・管理、診療記録の回収と内容の点検、診療情報の活用、診療情報の提供、診療記録の記載方法と種類について学ぶことを通じて、診療情報管理の基本的な理解を深める。

## 臨床医学 I

診療情報管理士の重要な業務である、世界保健機関（WHO）による国際疾病分類（ICD-10）のコーディングに必要な各疾病について、その原因、症状、所見、診断、治療などの基礎知識を学習し習得する。本科目では、特に感染症の原因となる細菌、ウイルスなどの知識を身につけ、各感染症の特徴、症状、所見、診断法、治療法などについて学ぶ。また、後半では、内分泌、栄養、代謝に関連する疾患についても学び、理解を深める。

## 臨床医学 II

診療情報管理士の重要な業務である、世界保健機関（WHO）による国際疾病分類（ICD-10）のコーディングに必要な各疾病について、その原因、症状、所見、診断、治療などの基礎知識を学習し習得する。本科目では、特に精神および行動の障害、神経系の疾患、目・耳の感覚系の疾患について知識を身につけ、各疾患の特徴、症状、所見、診断法、治療法などについても学ぶ。また、後半では、皮膚および皮下組織の疾患についても学び、理解を深める。

## 臨床医学 III

診療情報管理士の重要な業務である、世界保健機関（WHO）による国際疾病分類（ICD-10）のコーディングに必要な各疾病について、その原因、症状、所見、診断、治療などの基礎知識を習得する。本科目では、特に精神および行動の障害、神経系の疾患、目・耳の感覚系の疾患について学ぶ。また、後半においては、皮膚および皮下組織の疾患について、その原因、症状、所見、診断、治療などの基礎知識を習得し、理解を深める。

## 臨床医学 IV

診療情報管理士の重要な業務である、世界保健機関（WHO）による国際疾病分類（ICD-10）のコーディングに必要な各疾病について、その原因、症状、所見、診断、治療などの基礎知識を習得する。本科目では、特に生命の維持に直接関わる循環器・呼吸器系の疾病について、その特徴、症状、所見、診断法、治療法などについて学ぶ。また、後半では、主に消化器系の疾患について、その特徴、症状、所見、診断法、治療法などを学んでいく。

## 臨床医学 V

診療情報管理士の重要な業務である、世界保健機関（WHO）による国際疾病分類（ICD-10）のコーディングに必要な各疾病について、その原因、症状、所見、診断、治療などの基礎知識を習得する。本科目では、前半において、泌尿器および生殖系系の疾病の特徴、症状、所見、診断法、治療法などについて学ぶ。また、後半においては、妊娠、分娩、産褥について理解するとともに、主として周産期に発生する病態について学んでいく。

## 臨床医学総論

本科目では、解剖生理学や臨床医学Ⅰ～Ⅴなどの一連の授業を通して学んできた人体の構造と機能、さまざまな組織や器官の疾病と診断名、原因、症状、所見、診断、治療方法などについて、診療記録を管理するために必要な専門用語をキーワードとして、医学と医療に関するこれまでの学修のまとめを行う。また、授業の前半では、先天奇形や染色体異常、および外傷、中毒についても学習し、それらの傷病の原因、症状、所見、診断、治療法について学習する。

## 病院実務実習

本実習科目では、病院の基本的機能、診療録管理部門が病院内で果たす役割、入院・外来診療録の管理状況、疾病統計・退院時サマリーの内容などについて、病院での実習を通して、具体的に理解することをめざす。診療録管理部門での実習では、診療録の点検、編綴、収納、検索、貸出などを体験するとともに、コーディングの補助業務も行う。実習の前にはオリエンテーションや実習体験の報告会などを実施し、実習をより効果的なものにしていく。

## 国際統計分類

国際疾病分類（International Classification of Diseases）とは、診療記録において用いられる、疾病や医療行為に関する情報を収集・解析するために利用されるコーディングのシステム

## 診療情報総合演習 I

本科目では、これまで学んできた診療情報管理に関連する知識の定着を図ることを目的とし、演習形式の授業を展開することを通じて、診療情報管理士資格認定試験レベルの基本的知識を

## 診療情報総合演習 II

これまで学んできた診療情報管理に関連する知識の定着を図ることを目的とし、診療情報総合演習Ⅰに続けて、主に演習形式により診療情報管理士資格認定試験レベルの発展的知識を確実

であり、世界保健機関（WHO）が制定している。現在用いられているものは、その第10版（ICD-10）である。本科目では、医学系科目などで学んだ知識を活かし、ICD-10を利用して具体的な分類手法を演習形式で身につける。

確実に身につけることをめざす。また、病院実務実習を通じて経験した、病院の経営管理や医療管理、診療情報管理に関する現場での具体的な体験を振り返り、また学生同士が相互に交流することを通じて、卒業後に医療機関で働くうえで必要となる職業的な責任感や態度もあわせて育成することをめざす。

に身につける。また、病院研究などを通じて、診療情報に関する現場の理解をさらに深め、診療情報管理士として働くうえで必須の職業的倫理規範を学ぶとともに、がん登録やDPC、コンピュータの知識など、診療情報管理士認定試験レベルを超えた、より高度な専門知識についても広く学ぶ。

#### 産業心理学

高度に発達し複雑化・巨大化した現代の産業社会を構成している基本単位はいうまでもなく「個々の人間」であり、産業活動の効率化や、そこで生じるさまざまな問題の解決をはかるためには、人間の行動や心理についての中立的で客観的な理解が欠かせない。心理学の応用分野である産業心理学はこのような課題を達成するための研究分野である。産業場面に関わる人間の行動を「生産者としての行動」と「消費者としての行動」という2つの側面からとらえたいうことで考察を行う。

#### 広告と消費の心理学

消費者行動とは、消費者が購買し、使用・維持を経て廃棄に至るすべての行動プロセスを含んだものであり、その行動は、消費者の個人内要因や環境からの外的要因など、多様な要因から影響を受けている。本科目では、消費者のブランド選択に関する意思決定や情報処理、価格判断など、幅広くトピックを取り上げ、消費者を取り巻く問題を論考していく。

## 2. 専門教育科目

▼ 演習科目群 ▼ スキル科目群 ▼ 基礎科目群 ▼ 領域科目群／会計・ガバナンス領域

▼ 領域科目群／マーケティング・イノベーション領域 ▼ 領域科目群／戦略・組織領域 ▼ 専門関連科目群

▼ クロスオーバー科目群

### 演習科目群

#### アカデミックスキル

大学で学び、社会で活躍していくために必要な基本的なスキルを修得することをめざす。具体的には、情報リテラシー、コミュニケーションスキル、プレゼンテーションスキル、文章作成スキル等である。これらのスキル修得のために、授業内の学びと、授業外での学習課題の達成の往還が求められる。繰り返しの実践とフィードバックを通じて効果的な学びが実現できるように工夫する。フィードバックにおいては、教員からのフィードバックだけでなく、学生同士が質問し合ったり、助言し合うことを大切にしている。

#### プロジェクトマネジメント I

問題解決に必要な基礎スキルを修得することをめざす。研究課題、地域課題、企業課題等に対し、調査を行ったり、解決策を立案する。問題意識の言語化、課題の設定、課題達成のための計画立案、計画実現に向けた行動と改善といった、一連の問題解決過程について学ぶ。また、個人としてだけでなく、チームとして成果を出すためにどうすべきかについても学ぶ。そのため、教員からのフィードバックだけでなく、チームとして、またチームに関わる個人としての振り返りと改善を大切にする。

#### プロジェクトマネジメント II

専門的な問題解決に必要なスキル修得をめざす。プロジェクトマネジメント I での到達度を元に、学習課題を明らかにしつつ、より難度の高いプロジェクトに挑戦する。プロジェクトマネジメント I よりも学生が自律的に計画、実行し、より高い成果を生み出すことを求める。そのために、目的・目標の設定や、振り返りの機会を積極的に設け、技能だけでなく態度面での変容も求める。また、プロジェクト演習 I では専門分野別のプロジェクトを行うことを想定しているため、自身が何を専門としたかについても考える。

#### プロジェクト演習 I

自身が選択した専門課程に沿った学問的課題や実践的問題の解決過程を学ぶことを通じて、専門的な知識活用力、問題解決に必要な態度および技能の向上をめざす。プロジェクト演習 I では、選択した専門に関して、今まで学んできたことを確認するとともに、これから学ぶべきことを明らかにする。また、専門的な見聞から、学問・社会・企業といったさまざまな領域において何が問題となっているかについて理解を深め、専門的な解決方法について学ぶ。

#### プロジェクト演習 II

自身が選択した専門課程に沿った学問的課題や実践的問題の解決過程を学ぶことを通じて、専門的な知識活用力、問題解決に必要な態度および技能の向上をめざす。プロジェクト演習 II では、プロジェクト演習 I での学びを土台として、具体的なテーマを設定し、1年かけて取り組むための土台作りを行う。具体的には問題の発見と課題設定、そして解決策の立案のための分析を行う。また活動の振り返りと改善を通じて、自律的にチームワークスキルおよびリーダーシップを鍛えていくこともめざす。

#### プロジェクト演習 III

自身が選択した専門課程に沿った学問的課題や実践的問題の解決過程を学ぶことを通じて、専門的な知識活用力、問題解決に必要な態度および技能の向上をめざす。プロジェクト演習 III では、プロジェクト演習 II で扱っているテーマについて、解決策の立案や具体化、そして最終成果物の作成と発表を行う。1年間のプロジェクトの総まとめであり、1年間を通じて自身がどの程度成長できたかを確認する。また、プロジェクト演習 IV と V に向けて、卒業レポートのテーマ設定について検討する。

#### プロジェクト演習 IV

#### プロジェクト演習 V

#### 卒業研究

これまでのプロジェクト演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの総まとめ、あるいは大学での学びの総まとめとして論文もしくはレポートを執筆するための土台をつくる。特にプロジェクト演習Ⅳでは、執筆テーマを固め、執筆に必要な情報収集や整理、分析を行う。その過程では教員からのフィードバックだけでなく、学生同士で議論することを通じて、互いのレポートをブラッシュアップしていく。また中間発表も行い、プロジェクト演習Ⅴにむけた課題を明確にする。

これまでのプロジェクト演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの総まとめ、あるいは大学での学びの総まとめとして論文もしくはレポートを完成させ、最終報告を行う。これらは、大学生活で得てきた知識、態度、技能の集大成としての成果物となる。そのため、論理性や客観性を高め、わかりやすく説得力のあるものへと昇華させることをめざす。その過程では、教員からのフィードバックはもちろん、学生同士の学び合いも重視する。そして、専門家や一般人に対しても堂々と主張し、議論できるようになることをめざす。

プロジェクト演習Ⅳ・Ⅴでは、プロジェクト演習の総まとめとしてレポートもしくは論文を完成させるが、このうち論文については、プロジェクト演習での活動だけのまとめとしてではなく、各自の専門領域の学習の成果を反映させた卒業研究として完成させるものとする。それぞれ専門領域に応じた教員からのアドバイスを受つつも、各自が独自にテーマを設定することで、大学での学びの総まとめとしての性格を持たせ、作成した研究成果のみでなく、準備、進捗状況の報告とそれに対する指導も含めた作成過程についても学修の一環とみなす。

#### スキル科目群

##### 統計学基礎

統計学は、自然や社会の諸現象をデータに基づき分析し考察する学問であり、多くの専門分野において活用されている。本科目では、統計学の基礎として、まず、統計の歴史や活用事例および統計調査を扱う場合の倫理的配慮について講述する。そのうえで、高等学校までの教育段階で学んだ確率・統計の知識についても復習しつつ、記述統計（数値・グラフ表現、相関と回帰）、確率変数と基本的な確率分布、推測統計の基礎（母集団と標本、標本誤差、無作為抽出、パラメータ推定と仮説検定）などを学習する。

##### データサイエンスⅡ

データサイエンスは、公的な統計調査や専門の調査期間だけでなくビジネスの領域でもさまざまな形で活用されている。データサイエンスⅡでは、データサイエンスⅠで身につけた知識を基礎に、経営環境や財務データ、マーケティング調査に必要なデータ分析の基礎を学ぶ。記述統計の作成方法と分析、データ分析で用いる基本的な多変量解析（重回帰分析や主成分分析）、統計的意思決定（決定木やベイズ決定理論）の基本などを学ぶとともに、必要に応じて統計ソフトウェアの操作法や結果の解釈方法も学習する。

##### 社会調査法

社会調査の意義と方法、種類など、量的調査と質的調査の両方にわたって社会調査の基本的事項を学ぶとともに、フィールドワークにおけるデータの収集から分析に至るまでのプロセスについて学習する。これらの学習を踏まえて、特定の調査目的に沿って調査方法を決めて資料やデータを収集し、分析するかたちにまでまとめ上げていく社会調査の具体的な方法を学習する。また、社会調査の具体的な事例を類型ごとに紹介して、その意義を講述するとともに、解説、検討を加える。

##### ビジネス英語Ⅰ

グローバル化が進んでいる現代社会において、英語の運用能力は、ビジネスを行ううえで必要不可欠のものとなりつつある。本科目は、主に英語を母語としない学部生を対象とし、ビジネスの現場において必要になる英語運用能力の基礎を身につけることを目標とする。授業ではビジネスに関する、英語で書かれた文献、新聞記事、ドキュメンタリー映画などを利用する。プレゼンテーションやディスカッションの実践を通じ、ビジネス英語の運用能力を高めることをめざす。

##### データサイエンスⅠ

データサイエンスは、今後の社会において社会で活躍するために必須の知識となりつつある。データサイエンスⅠでは、マクロ経済指標や金融時系列を理解するうえで不可欠となるデータ分析の基礎を学ぶ。経済データ（国民経済計算など）とその利用方法、経済データを用いた基本的な統計分析や仮説検定（相関分析、回帰分析、時系列データ）、簡単な統計モデルの作成（回帰モデル、最小二乗法、回帰係数の検定）などを学ぶとともに、必要に応じて統計ソフトウェアの操作法や結果の解釈方法も学習する。

##### ビジネス英語Ⅱ

グローバル化が進んでいる現代社会においては、単に日常的な英会話ができるというだけでなく、文書によるコミュニケーションにも対応するために英語の長文読解力が求められるようになりつつある。本科目では、ビジネス関連の一般的な英文著作を理解する読解力を身につけることをめざす。内容を早く理解すること、また、専門用語の語彙力を高めることに重点を置く。イディオムなど英語の表現を正確に理解しながら、それらをテキストの全体的な流れから理解する読み方を習得していく。

#### 基礎科目群

##### 経営学入門

経営に関する基礎知識の習得を目的とし、ここでの知識を足がかりに以後に展開する経営学系諸科目でのより深い学修へと繋げていく。特に営利企業を中心に、企業の形態や各種経営資源の利用、企業経営のガバナンスと管理の方法、企業の組織デザインやメンバーの行動・モチベーションのマネジメント、企業戦略策定のための各種ツール、さまざまなステークホルダーとの関係性、マーケティング、社会的責任など、経営学の基本要素について学ぶ。

##### 経済学入門

特にミクロ経済学の領域に重点を置きながら、初歩的な経済理論について学び、経済学的な思考法を身につけることを目的とする。最初に、価格や財・サービスなど経済学で用いられる基礎的な用語について学んだうえで、市場のはたらきや、消費者、生産者の行動、市場の失敗と政府の役割、自由貿易の意義等について、数式を用いることなく理解できる範囲で学び、現実社会の諸現象を経済理論の視点から理解できるようになることをめざす。

##### 簿記入門Ⅰ

簿記とは、企業が行う日々の経済活動を記録・計算・集計して、経営成績と財政状態を明らかにするための手続きのことである。本科目では、簿記の基本的なメカニズムについて学習する。具体的には、簿記一巡の手続き、すなわち、取引の仕訳、転記、試算表の作成、決算整理、ならびに貸借対照表および損益計算書の作成といった一連の流れを学んでいく。本科目は、本学部で開講する会計関連各科目の基礎的な知識を修得するための科目として位置づけられる。

##### 簿記入門Ⅱ

簿記とは、企業が行う日々の経済活動を記録・計算・集計して、経営成績と財政状態を明らかにするための手続きのことである。本科目では、簿記入門Ⅰで修得した知識に基づいて、よ

##### 金融入門

金融分野の各科目への入門的役割を持つ科目として位置づけられる本科目では、私たちの生活や企業の活動において、金融がどのような働きをしているのかについて学ぶ。具体的には、金

##### マーケティング入門Ⅰ

本科目では、企業が行っているマーケティング活動の実例を踏まえながら、マーケティング論の基礎的な概念を理解することを目標とする。具体的には、マーケティング・マネジメントの

り具体的な取引、すなわち、現金と預金、棚卸資産、有形固定資産の期末評価、手形、貸倒損失と貸倒引当金、収益・費用の見越し・繰延べ、税金、伝票などに関する会計処理を学習するとともにその背後にある会計特有の考え方を学習する。

融市場の特徴や、金融機関の機能と役割など、金融論の基礎となる部分について学習する。また、銀行、信用金庫、証券会社、保険会社等の金融機関の各業界事情や実際の業務内容について学習し、将来、社会に出る際の選択肢のひとつとして金融機関を考える場合の具体的な仕事のイメージを持てるようにする。

基本枠組みと製品、流通、価格、プロモーションのマネジメントに関する基本的な考え方について学習したのち、事業の定義、製品ライフサイクルや市場地位別戦略などのマーケティング戦略に関する基礎概念の学習を行う。授業を通じて、今日の企業活動をマーケティング論の視点から読み解くための基礎的な力を養う。

### 経営組織論 I

現代社会の基本的構成要素としての組織を対象とし、その行動・変化のメカニズムを考察する。組織の経営管理について、企業組織だけでなく、行政組織、医療や福祉のための組織などさまざまな組織体を分析対象として、協働システムとしての組織の基本的な考え方を学習する。多様な組織観、組織形態と組織設計、意思決定、動機付け、リーダーシップ、組織文化、組織学習、企業間協力、組織変革など、経営組織論の基礎理論に関する理解を深める。

### 経営戦略論 I

経営戦略は、企業が自らを取り巻くさまざまな環境に対応しながら、その長期的な成長と発展を実現するための基本的方途を示すものであると同時に、企業の意思決定の基準ともなるものである。この科目では、経営戦略に関わる基本的な概念と戦略策定のプロセスについて、事業はいかにあるべきかを定める全社戦略と、いかに競争優位を確立するかを決める競争戦略に整理して基本的な考え方を学ぶ。実際のビジネスにおいて、それぞれのフレームワークがどのように使われているかを理解する。

領域科目群／会計・ガバナンス領域

### 財務会計論

大学で学ぶ会計は、特定の経済主体（個人および企業）の経済活動を、計数的に記録・計算・集計し、その経営成績と財政状態を利害関係者に報告する一連のシステムを意味している。特に、企業外部の利害関係者を情報の受け手とする会計を財務会計と呼んでいる。本科目は、財務会計のシステム、すなわち、会計制度の概要を理解するとともに、その制度を支える基礎理論について学習していく。具体的には、会計の機能と役割、会計ルールの構造、および財務諸表の役割と内容について分析していく。

### 会社法

企業組織と行動に関するルールとしての会社法を学ぶ。会社法における特に株式会社に関わる諸制度を、具体的な事例や条文を参照しながら解説する。法人性、資本制度、株式の譲渡や公開などの基本原理、株主総会や取締役会などの意思決定に関する機関設計や組織編成、会計、監査制度などのファイナンス・ガバナンスの制度、これらの概要を事例を示しながら学修する。必要に応じて企業間の取引等商法に関する内容にも触れながら、会社法の理解を深める。

### 簿記演習 I

簿記とは、企業が行う日々の経済活動を記録・計算・集計して、経営成績と財政状態を明らかにするための手続きのことである。本科目では、簿記に関する発展科目として、いわゆる株式会社の「商業簿記」に関する会計処理を学習していく。具体的には、簿記入門で学習した取引に加えて、純資産、リース会計、外貨建取引、税効果会計、支店会計、連結会計などに関する会計処理を学習するとともにそれらの背後にある会計特有の考え方を学習していく。

### 簿記演習 II

簿記とは、企業が行う日々の経済活動を記録・計算・集計して、経営成績と財政状態を明らかにするための手続きのことである。本科目では、簿記に関する発展科目として、いわゆる株式会社の「工業簿記」に関する会計処理を学習していく。具体的には、工業簿記の本質、実際原価計算、個別原価計算、総合原価計算、全部原価計算、直接原価計算といった原価計算の意味と会計処理を学習するとともにそれらの背後にある会計特有の考え方を学習していく。

### 国際金融論

本科目では、金融分野のうち、国境を越えた経済取引に関連する国際収支、為替相場について学習する。具体的には、第一に、国際収支の構造を理解したうえで近年の国際収支構造の変化と日本の産業構造の変化に強い関連があることを学ぶ。また国際収支の不均衡がしばしば国家間の政治摩擦に繋がること、その際に政治的主張が経済学的に正しい見解とは異なることも理解する。第二に、外国為替レートの変動が経済主体の種類ごとに異なる影響を与えること、為替レートの短期的、長期的な決定要因を学ぶ。

### 管理会計論

大学で学ぶ会計は、特定の経済主体（個人および企業）の経済活動を、計数的に記録・計算・集計し、その経営成績と財政状態を利害関係者に報告する一連のシステムを意味している。特に、企業のマネジメントを行うため、企業内部の各階層の管理者を情報の受け手とする会計を管理会計と呼んでいる。本科目では、管理会計の基礎的な理論、戦略的投資計画といった計画のための管理会計、および予算管理などの業績管理のための管理会計について具体的に学習していく。

### 保険論

本科目は、金融分野のうち、リスクマネジメントと保険についての領域を学ぶ。長寿社会における年金や保険の重要性、事故や災害など多様なリスクへの対応を求められる現代の企業の在り方を背景とする。具体的には、前半では、リスクマネジメントの目的、リスクマネジメントの手法としての損失コントロール、公正保険料および保険需要の理論などを学ぶ。後半では、実際の保険業界の動向、公的保険制度の課題、保険に関わる法制度といった、実務的な知識を身につける。

### 金融論

「経済の血液」とも呼ばれる金融は、グローバル化、ストック化の進んだ現代社会において、ますます重要なものとなりつつある。本科目は金融分野のうちで、マクロ経済のなかの金融の機能について学ぶ。具体的には、貨幣の機能と貨幣需要の動機、貨幣供給のメカニズム、物価と貨幣価値、中央銀行の役割、金融政策の目的と方法などについて、理論、実証の両面から知識を得たのちに、現代日本の抱える課題としてのデフレの特性と問題点、デフレからの脱却に対する日銀の取り組みについて考察する。

### 証券市場論

本科目は、金融分野のうち、証券市場の構造と証券投資の基礎理論について学ぶ。本科目は、証券市場で資金調達する企業の立場に立ったコーポレート・ファイナンスとセットになっており、こちらでは、証券市場で資金運用する投資家の立場に立って、株式市場をはじめさまざまな証券市場の仕組みや機能を学ぶ。具体的には、証券の種類、証券市場の仕組みとそれを律するルール、証券投資のリスクとリターンなどの概念、価格決定理論、分散投資の考え方、投資信託の役割といった知識を身につける。

### 経営財務論

現代の企業人にとって、企業の成績表である決算書、すなわち、財務3表と呼ばれる貸借対照表・損益計算書・キャッシュ・フロー計算書を読み解くことは必須のスキルといわれている。本科目では、企業を分析するための基礎理論、基本的知識および分析手法について学習する。具体的には、実際の企業の決算書の数値を用いて、収益性、効率性、安全性、および成長性の分析を行っていく。また、企業分析・企業価値評価のフレームワーク全体についても、事例を用いながら説明を行う。

### 国際会計論

企業活動のグローバル化に伴い、国際会計の動向はめまぐるしく変化している。本科目は、国際財務会計の領域を対象とし、会計基準の国際的統合を巡る歴史的・政治的な経緯と最近の状況、ならびに国際会計基準の背景をなしている理論および特徴的な会計基準について学習していく。具体的には、①国際会計類型論、②会計基準の国際的調和化の歴史および各国の対応、③IFRSの理論的特徴、④具体的なIFRS基準、および⑤国際会計研究の将来の方向性について考察する。

### コーポレート・ファイナンス

本科目は、金融分野のうち、証券市場と企業の金融行動についての基礎理論について学ぶ。本科目は、証券市場で資金運用する投資家の立場に立った証券市場論とセットになっており、こちらでは、証券市場で資金調達する企業の立場に立って、企業の金融行動について学ぶ。企業がどのように資金調達方法を選択し、投資を意思決定するかといった金融行動の基本を学んだ後、企業統治（コーポレート・ガバナンス）に関する諸問題や企業の各発展段階における金融行動について考察する。

### 監査論

株式会社企業の監査制度の基礎知識を、体系的に理解することをめざす。株式会社監査の基礎概念の理解を起点に、監査の担い手である公認会計士や監査法人などの監査人に関する制度を学び、次に財務諸表監査、中間監査、内部統制、監査意見形成などについて基礎的知識を学習する。企業会計審議会の監査基準の内容とポイントを概説し、その理解や解釈のために日本公認会計士協会の実務指針も参照しつつ、公認会計士や監査法人での理論・制度・実務について基礎を学ぶ。

### 地域金融論

本科目は、金融分野のうち、地方銀行や信用金庫といった地域金融機関の役割と課題について学ぶ。地域金融機関は地域経済を支える重要な役割を果たしている。少子高齢化等の影響で活力が失われつつある地域経済に、地域金融機関がどのように貢献しようとしているのか、多くの事例を示しながら考察する。具体的には、フィンテックの発達や個人の金融行動の変化や事象承継など地域の中小企業の課題に対して、地域金融機関がどのように対応しているのかを学ぶ。

### 税法

税金は、私たちの日常生活と密接な関係があるだけでなく、企業活動にさまざまな影響を及ぼしている。本科目では、租税法の考え方・基本的な仕組みを学習していく。具体的には、所得税法、相続税法といった主に個人に課される税金に関する法律、および、法人税法や消費税法といった主に企業に課される税金に関する法律を取り上げて、それらの基本テーマや仕組みを学習する。加えて、わが国の現行租税制度と政策について考察を行っていく。

### 領域科目群／マーケティング・イノベーション領域

### マーケティング入門 II

本科目では、マーケティング入門 I で学習した内容を基礎として、ブランドマネジメントや消費者行動論を中心としたマーケティング論に関する基礎的な知識を、企業の実例を用いながら学習する。授業では、ブランドの構成要素や企業が行うブランド価値のデザインといったブランドマネジメントに関する考え方を学習したうえで、消費者の購買決定プロセスや顧客満足、企業の顧客リレーションシップマネジメントなど消費者行動論の基礎的な知識を学習する。

### 流通論

流通は、商品を消費に結びつけるために不可欠の役割を担っている。また、現代社会では流通業を取り巻く環境もこれまでとは大きく変化している。この科目では、流通の役割やその歴史的な発展の過程、流通に関わる現象を分析するための主要概念について学習する。また、事例では卸売業者や小売業者などを取り上げ、流通業の多様な業態についても理解を深める。この授業を通じて、流通論に関する基礎的な知識を習得するとともに、それらの知識を運用し流通に関わる問題を検討できることを目標とする。

### イノベーション・マネジメント

私たちの生活を豊かにする新たな財やサービスを生産、供給するイノベーションを理解することは、経済社会の発展を理解するうえで欠くことのできない条件である。この科目では、イノベーションとはどのような概念なのかに関する理論的側面を学習したうえで、ICTの発達・普及により誕生した新産業を含む多様な産業のなかから重要なトピックを選択して深く追求することにより、イノベーションを生み出すためのメカニズムについて理解を深める。

### 公共マーケティング

日本は本格的な少子高齢化時代を迎え、地域の公共経営的な問題がさまざま生じている。本科目では、とくに地域が持つ固有の文化資源について再検証し、それらを新たな公共サービスやマーケティングに応用していく方法論を学び、広く地域再生について考えていく。また、具体的に大学と提携している自治体や地域企業を訪問し、フィールドワーク活動とおとした地域診断や地域課題解決のための提案を行うなど、実践的な活動も行う。

### 広告とマスメディア

グローバル化と情報化の進んだ現代社会では、広告・新聞・雑誌・テレビ・インターネットなどのメディアが社会や文化や人間に及ぼす影響はきわめて大きい。本科目は、広告業界やマスコミ業界の現場で働く人々をゲストスピーカーとしてむかえ、メディアの解読の仕方や生成の条件・プロセスを知り（メディア・リテラシー）、メディアを能動的に使いこなし自ら作り出しうる能力（メディア・プラクティス）の基礎を与えることで、メディアの実態とその可能性を理解する。

### マーケティング・リサーチ

マーケティング入門、消費者行動論で得た知識を前提に、本科目では、マーケティング・リサーチでよく用いられる代表的な統計解析の基本的な考え方と適用方法を演習を通じて習得する。授業では、マーケティング・リサーチの概要と意義、プロセスについて学習した後、統計ソフトを利用しながら、相関分析、重回帰分析、因子分析、分散分析などデータ分析のための手法を学ぶ。受講者は自ら調査を行い、収集・整理したデータを分析し、結果をレポート化するところまでの技能を身につける。

### ロジスティクス論

現代は、生産・販売拠点のグローバル化に伴い、ロジスティクス・システムの世界規模での再構築が進められている。このような現象の理解やロジスティクス・システムを分析・評価するためには、ロジスティクスに関する知識が不可欠である。本科目では、人、もの、かねの「流れ」最適化の観点から、経営資源調達の理

### マーケティング・コミュニケーション

マーケティング・コミュニケーションとは、企業が自社の商品やサービスを消費者に認知してもらい、購買へとつなげる活動を意味する。ICTの進歩やさまざまなSNSの普及により企業と消費者とのマーケティング・コミュニケーションのあり方も多様化が進んでいる。この科目では、広告、パブリシティ、口コミといった具

### ベンチャービジネス論

企業を取り巻く環境は急速に進むグローバル経済とICTの進歩によってめまぐるしく変化している。既存大企業の対応が遅れるなか、新興企業の急成長とイノベーションに注目が集まっているが、日本ではそれらの開業率と起業意識は低いことが指摘されている。こうした状況を踏まえて、この科目は、起業支援策を概観すると

論と実践を学ぶ。生産システム、ロジスティクスの基礎を理解したうえで、部品や原材料などの物流（ものの流れ）と商流（取引の流れ）について、パソコンの表計算ソフトウェアを用いて、プログラムを組みながら実践的な学習を行う。

体的なマーケティング・コミュニケーションの方法や、マーケティング・コミュニケーションを効果的に実施するための考え方に関する基礎的な知識を、具体的な事例を通じて学習する。

ともに、ベンチャー企業のイノベーションとマネジメント、その担い手としてのアントレプレナーについて、事例を交えて学習する。

### グローバル・マーケティング

本科目では、多国籍企業が行うマーケティング活動に関する考え方について講義を行う。授業では、まずマーケティングマネジメントの基本的な枠組みについて確認したうえで、多国籍企業のマーケティング活動に関する各トピックについて、通常のマーケティング活動との違いに留意しつつ検討を行う。この授業を通じて、多国籍企業のマーケティング活動に関連する基本的な知識を習得し、この知識を活用し、実際の多国籍企業のマーケティング活動を検討できることを目標とする。

### 産業財マーケティング

企業のマーケティング活動は、企業と消費者との間のみならず企業間で取引が行われる産業財についても行われる。この科目では、産業財マーケティングにおける製品、価格、流通チャネル、プロモーションのマネジメントや顧客関係管理といった産業財マーケティングに関する基礎的な考え方について、企業の実例を交えながら学習する。授業を通じて、消費者を対象としたマーケティングとの違いを踏まえて産業財マーケティングに関する知識を習得することを目標とする。

### サービス・マーケティング

マーケティングは有形の財を対象として発展してきたが、現代では無形の財であるサービスが多様化し、その重要性も高まってきている。この科目では、サービスに関するマーケティングに関する基礎的な考え方について、具体的なサービスの事例を交えて講義を行う。授業をつうじて、サービスの特性とマーケティングの関わりや、サービスの品質、価格、プロモーションのマネジメントといったサービス・マーケティングに固有のトピックに関する知識を理解することを目的とする。

### 知的財産マネジメント

経済のソフト化とグローバル化の進展により、人間の知的生産活動から生まれる知的財産は企業・団体等の価値や競争力を左右するものとして注目されている。技術や経営ノウハウ、顧客情報、ブランドなどの知的財産の保護が経済活動における重要性を増すなか、プロパテント政策による産業競争力の強化だけでなく、知的財産の戦略的な活用的重要性が指摘されている。この科目は、知的財産に関する制度や政策上の視点だけでなく、その創造、権利化、活用に関するマネジメントについても学習する。

### 技術経営論

優れた製品を低コストで開発・製造すれば、企業の業績に結びつくという時代ではなくなった。製造企業において技術で最先端を走りながらも、それが収益に結びつかない事例が増え、安定的に高い業績をあげるには戦略的な考え方やマネジメントが重要になっている。この科目では、経営工学をベースにした技術開発や生産管理、あるいは新技術の事業化をめざすベンチャー企業のあり方に関するものではなく、経営戦略論や経営組織論の知見をベースに技術の付加価値の最大化のためのマネジメントを学習する。

## 領域科目群／戦略・組織領域

### 現代企業論 I

企業の規模や形態、役割は時代や国・地域によって異なる。また、企業は誰のために存在するのかは、その目的や役割によって決まり、経営のあり方も異なってくる。この科目は、ミクロ企業論の観点に依拠して、企業の存在意義について理解し、その経営実践について学ぶ。特に、現代産業社会を支えている株式会社制度について焦点をあてる。具体的には、企業形態の特徴、株式会社の本質と特徴、会社機関、コーポレート・ガバナンスの国際比較、企業間関係の構造などについて理解を深める。

### 現代企業論 II

今日の企業に求められているCSR（企業の社会的責任）は、持続的な地球環境や多様性、人権への配慮などとともに、地域コミュニティへの貢献やそのための工夫ある施策も重要になってきている。それらは、企業の経済的論理とも相反しない形での本業内での実行が鍵となっており、企業の能動的利益活動と結びつけたCSV（共通価値創造）の考え方も広がっている。これらについての基礎知識を修得しそれを軸としながら、個別の日本企業についてのケーススタディを通じて実践的に学習する。

### 経営組織論 II

どうしたら個人のモチベーションは高まるのか。どうしたら集団のパフォーマンスは高まるのか。どうしたら組織の目標について合意形成しやすくなるのか。組織はどのように行動に作用するのか。これらの組織を構成するメンバーの行動に焦点を当て、人間行動に関する理論、集団の意思決定に関する要因やうまく機能させるための方法を学ぶ。モチベーション理論、集団の基本的属性やリーダーシップ、パワー、コンフリクトの解消、管理者のスキルなど、組織行動論を中心に理解を深める。

### 経営戦略論 II

ICTの急速な進歩とグローバル経済の進展により企業を取り巻く環境の変化が激しくなるなか、経営戦略に関する新しい理論の構築が試みられている。この科目は、経営戦略論に関する最新の理論を中心に学ぶ。具体的には、ナレッジ・マネジメント、サクセストラップ、ダイナミック・ケイパビリティ、VSRプロセスといった学術的な理論を検討し、かつそれぞれを事例に即して説明していく。

### 経営史

歴史的・長期的観点から企業や産業の様相と変質をとらえ、その現在の立ち位置を明確にすることで、将来への展開のあり方を考える。トップマネジメントの行動や戦略、新製品・サービスへのイノベーション、組織変革などについてのケーススタディを取り上げつつ、随時一定の経済史的ダイナミクスの解説を加え、そうした企業行動の歴史的必然性を明確にする。長期的に継続する企業が多いと言われる日本企業の特徴を中心に、適宜外国企業の事例を含めて解説していく。

### 人的資源管理論

本科目は、組織成員を最も大事な経営資源として捉え、組織成員が成長でき、且つ人的資源を最大限に活用および拡大再生産できる組織のあり方を学ぶ。従来の労務管理、人事管理は、いわば、ハードウェアの生産と取引を本位とした産業社会時代に適合する管理原則であったのに対して、人的資源管理は、知識社会時代における日本のあらゆる組織体のコアコンピタンス構築に高い親和性をもつ。これらを踏まえ、今日の日本企業における人的資源管理の特徴とその変遷について理解を深める。

### 経営情報論

情報技術あるいは情報通信技術の革新が、企業経営ならびに社会に及ぼす影響を前提に、経営情報システムの基礎的事項について学習する。そして経営活動や社会生活のなかで経営情報がどのように活用されているかを理解する。具体的には、経営情報の基礎概念、情報化社会の進展、経営情報システムの考え方などについて基礎的内容を学習する。さらに、経営情報と社会生活との関わりについて具体的な事例を通して見ることで、経営情報システムの理解を深める。

### 中小企業論

これまでの日本の経済・産業においては、企業数で99%以上を占める中小企業が重要な役割を担ってきた。近年グローバル化の進行のなかで苦境も伝えられる一方で、ベンチャー企業や第二創業による技術革新や雇用創出効果が注目され、グローバル経済と立地地域の経済との狭間において、中小企業に対する期待や関心はむしろ高まっている。中小企業の役割や地位の歴史の変遷、政策的支援などの基礎的知識を理解し、中小企業のマネジメントと自立的発展への方策、地域内外における集積やネットワーク形成、グローバル化への対応、ベンチャー企業の育成などについて学ぶ。

### ビジネス・ケーススタディ

本科目では、企業経営における主として戦略と組織マネジメント面について、個別企業のケーススタディを進める。主に畿内の企業や経済団体からさまざまな分野の企業経営等のトップや第一線で活躍中のゲスト講師を招く。さまざまなゲスト講師に、経営戦略を中心に組織文化、人材確保・育成方法などについても、豊富な経験や実践方法を語ってもらうことで、受講生が企業行動や仕組みへの理解をより深め、それを社会や組織において活用できる力を涵養する。

### グローバル経営論 I

近年、企業間競争が国の垣根を越え地球規模に広がっていくなかで、改めて国際競争力の源泉に関心が集まっている。この科目は、政治的、社会的、文化的条件の異なる国で事業を展開する企業の多様なマネジメントを、経営戦略論と組織論をベースに学ぶ。多国籍企業は、どのような戦略を通して、国・地域ごとに異なる環境に適応あるいは働きかけているのか。さらに、企業として内の一貫性を保つために、どのような統合のメカニズムが働いているのか。これらグローバル経営に関する論理を、事例を通して学ぶ。

### グローバル経営論 II

本科目は、既存の国際経営論が主に大企業の国際化の展開プロセスに傾斜していた反省から、ポーン・グローバル企業と呼ばれるようなベンチャー・中小企業の早期国際化の論理と実践について重点をおいて学ぶ。特に、ICTの発達と普及、クラウドファンディングによる資金調達など、ビジネスのグローバル化を促進する新たな外的要因と、ハイテク系スタートアップを中心にベンチャー・中小企業のグローバルビジネスの展開事例を通して、ポーン・グローバル企業に固有の内的要因を学ぶ。

### 労働法

国連SDGs等においても人権に配慮した公正・公平で多様な働き方・雇用環境が求められている。労働法について、その種類や基本理念・概念、労働者保護のための各種制度等を、事例を挙げながら具体的に学ぶ。卒業後すぐに労働者として社会に出る、または今後労働を管理する立場にもなり得る学生に、働きやすく持続可能な社会の実現のために、どのように労働者の権利や環境が保証されていくべきかを、身近な課題として具体的に考えさせる。

### 非営利組織論

今日、NPOやNGO、病院、学校等非営利組織の役割はますます増大してきており、法によるそれらの後押しも進められてきた。企業や行政のSDGs実践においてもNPOの役割は大きい。この科目では非営利組織について、その定義や種別、法的根拠や成り立ち、活動の内容について基礎的内容を理解したうえで、非営利組織における人的資源、ガバナンス、アカウントビリティ、政府や自治体あるいは民間企業との関係性をどのようにマネジメントしていくべきかを、事例を使いながら学ぶ。

### 生産管理論

開発・生産の現場と企業・産業の競争力を結びつける戦略的なマネジメントが、グローバル競争の激化に伴ってますます重要になってきている。企業の生産活動の現場において、組織的活動がどのように効率的に行われ経済的な成果につながっているのか、その管理の仕組みを理解する。競争力の源泉としてのコスト・品質・速度・フレキシビリティについて、それらの向上のための基本的なロジックやモデルを学び、実際の企業現場における事例を参照しながら理解を深める。

### 環境経営論

CSRやSDGsの観点からも企業の環境制約に配慮した経営が厳しく求められてきており、環境保全や管理に積極的に関与することが企業価値を高めることにもつながっている。この科目では、企業や各種組織が環境問題にどう取り組むべきかの理論的枠組みを概観し、それらと関連付けながら国内外の企業による先進的取り組み事例を解説する。また、環境保全のコストと環境経営の効果を定量的に把握・分析する環境会計の基本にも触れながら、有効な環境経営やサステナビリティ施策のあり方を考える。

### 専門関連科目群

### 実践英語演習

経済のグローバル化の進んだビジネスシーンにおいて、英語でコミュニケーションを行う技能は、程度の差こそあれ、多くのビジネスパーソンにとって必須のものとなりつつある。その一方で、ビジネスシーンで必要となる英語は、中等教育段階で学ぶ英語とは多くの点で異なる特徴を持っている。本科目では、エントリーレベルのビジネス実務の即戦力になる英語力の習得を目標とする。ビジネスシーンの言語使用を想定して、リスニングとリーディングを中心に学習する。また、既習文法項目の確認やリスニングやリーディングで扱った題材と関連する会話練習なども行う。

### ビジネス演習 I

経営学は変化する社会の実態を常に学問体系のなかに取り入れ、積極的に社会にはたらきかけていくきわめて実践的な学問である。それゆえ学修者は日常的に社会の現実のなかに身を置き、現実を観察してゆく必要がある。この科目では、受講生が社会のさまざまな現場を体験し、観察するとともに、関連する専門領域の事前学習や、事後学習における成果のまとめなどにより、実体験を学問に結びつけることを目的とし、それによって社会における実践力を涵養する。

### ビジネス演習 II

実践的な学問としての経営学は、変化する社会の実態を常に学問体系のなかに取り入れ、積極的に社会にはたらきかけていく。それゆえ学修者は日常的に社会の現実のなかに身を置き、現実を観察してゆく必要がある。この科目では、受講生が企業実務に関わるさまざまな現場を体験することや、関連する経営学の専門領域の事前学習や、事後学習における成果のまとめなどにより、実体験を学問に結びつけることを目的とし、それによって社会における実践力を涵養する。

### ビジネス演習 III

現代の経営学では、変化する社会の実態を常に学問体系のなかに取り入れ、長期的・短期的な

### ビジネス演習 IV

現代の経営学では、変化する社会の実態を常に学問体系のなかに取り入れ、それによって組織

### ビジネス演習 V

経営学は変化する社会の実態を常に学問体系のなかに取り入れ、積極的に社会にはたらきかけ

<p>それぞれの戦略を明確にし、それをメンバー間で共有することが重要になってきている。この科目では、受講生が社会のさまざまな現場を体験することによって、そこでの戦略的行動を実体験として知るとともに、関連する専門領域の事前学習や、事後学習における成果のまとめなどにより、実体験を学問に結びつけることを目的とし、それによって実践力としての自らの戦略をデザインできるような力を涵養する。</p>	<p>マネジメントを常に最適化していく必要がある。この科目では、受講生が社会のさまざまな現場を体験し、そこで組織のデザインやシステム、リーダーシップのあり方などを観察・体験するとともに、関連する専門領域の事前学習や事後学習における成果のまとめなどにより、実体験を学問に結びつけることを目的とし、それによって組織のメンバーとしての実践力を涵養する。</p>	<p>ていきわめて実践的な学問である。この科目では受講生が、営利企業だけでなく、自治体やNPOなど多様な組織に求められる持続性やコミュニティ活動などの諸課題について、さまざまな現場を体験する。そして、関連する専門領域の事前学習や事後学習における成果のまとめなどにより、実体験を学問に結びつけ、それによって社会における実践力を涵養する。</p>
<p><b>ビジネス演習 VI</b></p> <p>経営学は変化する社会の実態を常に学問体系の中に取り入れ、積極的に社会にはたらきかけていきわめて実践的な学問である。この科目では、現代のグローバル化に対応するために企業がその行動・戦略や組織において直面している諸課題について、受講生がさまざまな現場で実践的に体験する。関連する専門領域の事前学習や、事後学習における成果のまとめなどにより、実体験を学問に結びつけることを目的とし、それによって社会における実践力を涵養する。</p>	<p><b>法学概論 I</b></p> <p>国家の統治組織や作用、行政権の主体と個人との関係等について学ぶ。主に憲法を中心として進めていき、国民の権利・自由に関する基本的人権論や、権力分立・国家行政組織・地方自治といった統治機構の諸制度を範囲とするが、重要事項の理解を深めるために、関連のある諸法にも触れていく。本科目では、各講において具体的な事例を用いた設問を挙げ、そこで論点となるテーマに関する判例・学説を理解する。また、各制度のあり方について考察し、憲法の基本理念や一般理論を修得する。</p>	<p><b>法学概論 II</b></p> <p>私法全体の理解を目的とし、主に民法と商法を中心に進めていく。本科目では、契約、住まい、家族生活、事故の遭遇などのさまざまな場面において、私法との有機的な関連を可能な限り明らかにし、各制度の正確な位置づけを図る。各テーマの理解を深めるために、借地借家法、製造物責任法、民事訴訟法といった特別法も、適宜に範囲に含める。また、具体的な事例を提示して、その解決を念頭に置きながら重要な事項について説明することで、初歩的な応用力を身につける。</p>
<p><b>政治学概論 I</b></p> <p>政治学への入口として、政治についての意識形成、政治についての基礎知識、政治学を学問としてとらえる力を身につけることを目的とする。授業では、権力、デモクラシー、政治システムと政治過程、地方自治、国際政治、宗教と政治、官僚制などを概観し、基礎的知識を獲得する。そのため、テキストを活用しつつ現代日本の政治現象を身近に感じられるように、時事問題を政治学的に考察するヒントを提示するとともに、テレビを中心とするマスコミ以外によって、政治に関する情報・言説を知るソーシャルメディア利用法などにも言及する。</p>	<p><b>政治学概論 II</b></p> <p>具体的な政治家・政治現象の事例から、戦後の日本政治を政治過程論として概観し、さまざまな政治家が活躍する舞台を具象的に再現できるようにする。さらに、日本における政府の仕組み、とりわけ政党と官僚との関係を知り、政治家・政治過程の実際について自分で考え、論評できるようになることを目標とする。</p>	<p><b>社会学概論 I</b></p> <p>自我、家族、コミュニティ、階級・階層、国民国家、グローバル化、情報化など社会学の基本概念的な理解を通じて、現代の日常生活を社会的に理解する方法の修得をめざす。社会学を学習するうえでの困難のひとつは、社会が空気のような当たり前の存在に思われがちな点にあるが、この科目では、社会の歴史的な形成を明らかにすると同時に、社会の自明性や秩序を守るために私たちには何が求められているのか、という問題意識を身につけることも目標になる。</p>
<p><b>社会学概論 II</b></p> <p>近年社会学の研究対象として定着した中・後期親子関係、教育システム、親密性、記憶、情報技術などのテーマについて、それぞれの研究分野の第一人者によるテキストの読解を通じて、社会的想像力の定着をめざす。</p>	<p><b>地理学概論</b></p> <p>地理学は大きく地誌学と系統地理学に分類されるが、ここでは系統地理学を扱う。系統地理学は、地球表面における自然現象を地域的な観点から究明する「自然地理学」と、地球上の人文現象（人口・集落・産業・交通・文化など）を地域特性の構成要素として考察する「人文地理学」に大別されており、その両方について概観する。</p>	<p><b>地誌</b></p> <p>日本を含め世界の古典的な「地誌(書)」を取り上げ、「人類はなぜ地誌を書くのか」「地域を描写する」ということの基本について考える。後半は、さまざまな“地域”に注目した地誌を中心に取り上げ、あわせて身近な地域の文化・社会を読み取る力をつけることを目標とする。</p>
<p>クロスオーバー科目群</p>		
<p><b>地域経済論</b></p> <p>現代の経済では、グローバル化や知識経済化といった環境のなかで、集積の経済や地域クラスターを基礎とする自立的な地域経済システムの発展が求められている。経済の空間的展開と地域経済の発展についての基礎的な知識と概念や地域経済に関わる諸政策などの論点を整理したうえで、いくつかの国内外の特色ある先導的地域や身近な地域の事例を取り上げて、産業活動のみならず、住民生活の場としての地域経済について、そのダイナミズムや課題について実践的に学習する。</p>	<p><b>租税論</b></p> <p>日本の税制は複雑でわかりにくいといわれるが、「租税」は財政の中心的な役割を果たすものである。なにかが問題で、どうあるべきなのか。これらを考えるにあたり、本科目では、現行税制の基礎となる税法を規律する租税法律主義、租税平等主義などの憲法上の諸原則を概観した後、所得税、法人税、消費税、相続税等の主要税目の基本的な仕組みを学習し、それぞれの租税の特徴や日本の租税制度全体における位置づけを理解することで、税について考察する基礎的な力を身につける。</p>	<p><b>自治体経営論</b></p> <p>国の内外を問わず、地方自治体はそれぞれ独自の事情の下にさまざまな課題に直面し、また、その地方の実情に即した課題解決のあり方が求められている。こうした自治体の現状を理解するために、自治体経営の理論と実際について講述する。具体的には地方自治体の組織と仕組み、地方自治体をめぐるお金の流れなど、自治体経営の基礎知識を理解させる。そのうえで、ニュー・パブリック・マネジメントと総称される手法の導入に代表される、自治体経営の近年における変化も含めて、具体的な事例に則して自治体経営の実際についても言及する。</p>

### 医療政策論

貧困や格差といった現代社会の構造的な問題に対処するうえで、医療・社会保障制度の果たす役割はますます重要性を増している。本科目では、再分配制度としての社会保障の役割を概説したうえで、我が国および先進各国の社会保障制度、医療保険および医療提供体制に係る制度の概要と直面する課題、医療と隣接する介護保険制度の概要と改革課題などについて、その特徴と政策課題を解説し、医療・社会保障制度に対する知識と理解を深める。

### 医療事務研究 I

医療サービスのように「公的に供給される私的財」の側面をもつ財の配分は、市場における交換とも政府による公共財の供給とも異なり、それを支える制度や組織の特徴を強く反映するものとなる。医療事務研究 I では、まず病院の組織や医療保険制度について具体的な事例を踏まえて講述する。さらに医療事務の中心的な業務である保険請求事務のしくみについて解説し、診療報酬点数表などに基づいてカルテ記載の治療内容から診療報酬明細書を作成するといった具体的な治療代を算定する作業など医療事務の実際にも触れながら理解を深める。

### 医療事務研究 II

医療サービスのように、法律上の制度や組織の特徴を強く反映した資源配分のあり方は、制度や組織それ自体の変化に大きく影響される。医療事務研究 II では、老人医療や公費負担医療にまで視野を広げて医療費の算定業務についても学習しながら、良質な患者サービスの提供を重視するという医療界の変化に対応すべく、医療制度が近年どのように変化してきたかを解説する。また、患者接遇や院内コミュニケーションに関する実践的な知識と技能についても学び、医療の経済的側面に焦点を当てながら医療事務の役割について学習する。

### スポーツ経済論

近年、地域スポーツの振興に伴って、スポーツは単に個人の健康に資する運動という領域を超えて、地域コミュニティをはじめ社会生活のために欠くことのできない活動であるという認識が広がってきた。それとともに、スポーツを経済的に支える仕組みや、スポーツの経済効果が経済学の視点からも分析されるようになりつつある。本科目では、具体的な地域スポーツやプロ・スポーツのマネジメント組織のあり方にも触れながら、スポーツと経済との関係を理解するための知識と考え方を身につける。

### 観光経営論

インバウンドの拡大とともに、観光関連産業は日本の経済のなかで重要な役割を果たすようになりつつある。そのなかで、観光にたずさわる各種の事業体の果たす役割もこれまでに大きくなっており、観光産業の事業のあり方を学ぶことは、これからの日本の観光を考えるうえで重要なものとなっている。本科目では観光関連産業の事業活動全体を経営学の枠組みと理論に基づいて概観する。そのうえで固有の課題と対応策などを学ぶことにより、観光関連産業のビジネス・モデルを構築するデザイン能力を養うことを目的とする。

### コンピュータシステム概論

現在の経済社会において不可欠の技術的基盤をなすコンピュータを適切かつ高度に活用するため、コンピュータに関する基礎的な理論と現代的課題を学ぶ。講義では、コンピュータの仕組み（ハードウェアとソフトウェア）とその動作原理、OS（Operating System）の機能（タスク管理、記憶管理、プログラミング制御等）、コンピュータと社会との関わりなどについて学習し、理解を深める。

### プログラミング演習 I

プログラミングの基本的な知識を通して、コンピュータに問題を解かせる際に必要となる処理とそれを実行するための手順を理解し、実際にプログラミング言語を使ったコーディングに必要な知識を身につけることを目的とする。データ型、演算子、条件分岐や繰り返し等の制御文、配列、ファイルの入出力に関するプログラミングの基本的事項を学習するとともに、さまざまな分野で用いられる基本アルゴリズムを通して、問題解決に必要な論理的な思考力を養う。授業は演習形式で、プログラミングを経験したことがない学生も受講できるよう基礎から行う。

### プログラミング演習 II

プログラミングは、それを知識として理解しているだけでなく、実際に利用することで初めて身につく技能である。本科目では、アプリケーション・ソフトに付属するスクリプト言語やシェル・スクリプトを用いて、自動処理を体験しながら、プログラミング論で学んだ知識を実践的に用いる技能を身につける。そのうえで、実際にフローチャートを描き、目的とする機能を実現するプログラムを設計したうえで、最終的には比較的理解の容易なプログラミング言語を用いて、簡単なプログラムを作成することをめざす。

### コンピュータネットワーク I

近年の情報ネットワークの発展と普及は目覚ましく、インターネット等を通じたコミュニケーションの拡がりのみならず、多様なモノをネットワークで接続し、情報を交換・制御するIoT（Internet of Things）が注目を集めている。本科目では、発展を続ける情報ネットワークを理解し適切に活用するために、ネットワークに関する基礎的な理論や技術を理解することを目的とする。同時に、コンピュータウイルスや情報漏えいなど、ネットワークの情報セキュリティに関わる問題についても理解を深める。

### 情報セキュリティ I

高度化する今日の情報化社会においては、インターネットをはじめとするネットワーク環境やコンピュータをはじめとする端末機器の利用は必須のインフラとなっており、同時にそれらの安全性を守ることも極めて重要な課題となった。情報化社会そのものが持つ危険性や問題点、ネットワークシステムとしての脆弱性や危険性への対応策、ユーザーが危険を回避するための端末レベルでの対応策や情報モラルなどについて学ぶ。具体的には、不正アクセス対策、ウイルス・マルウェア対策、個人情報保護対策、パスワード管理や暗号化、SNS等での情報流出対策、著作権保護などについて事例を用いながら学習する。